

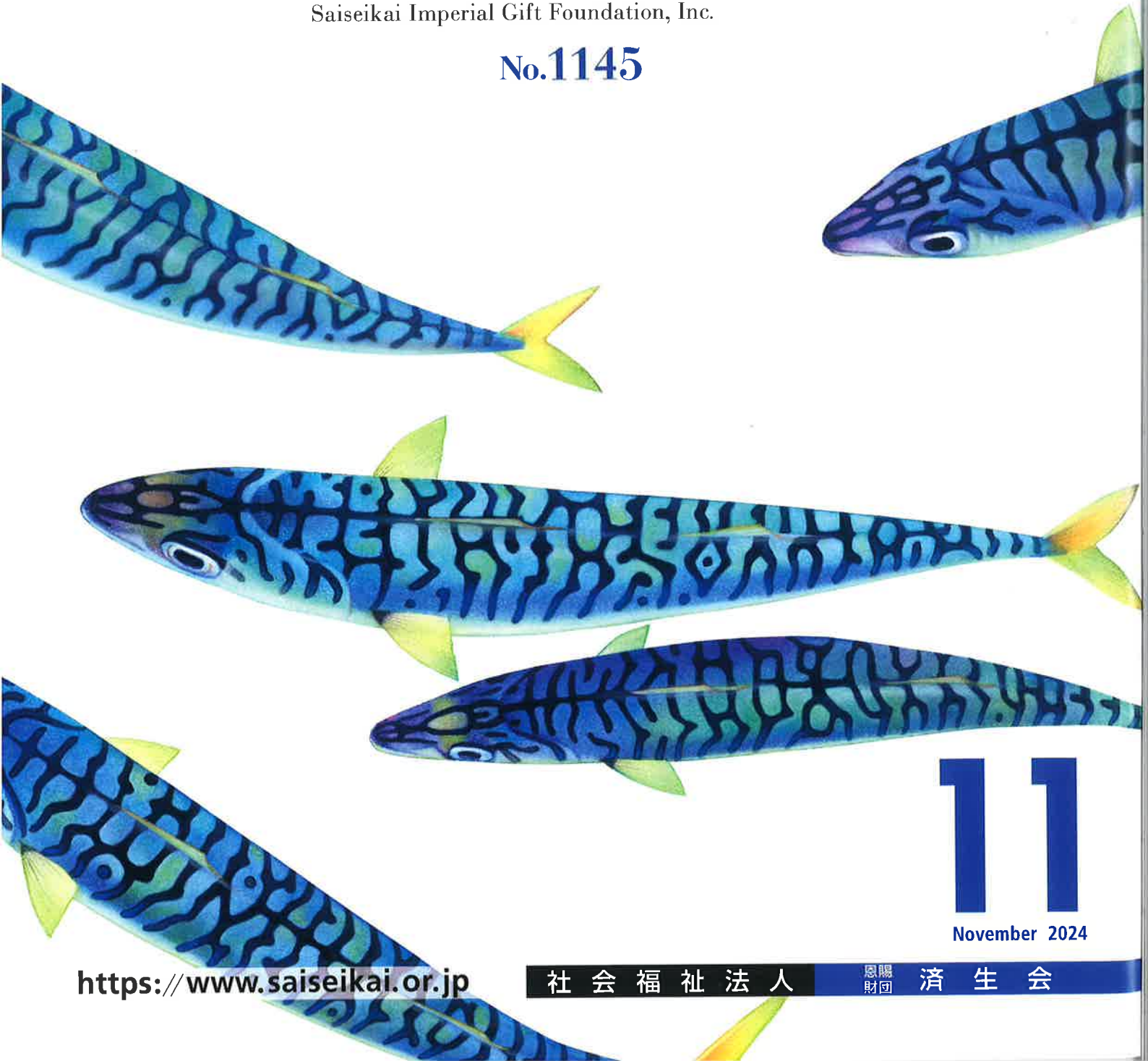
濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1145

「NEWSな濟生人」
ボランティアと
つくる「チーム医療」



11
November 2024

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

済生会の 不易流行論

194

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



住民の安心の拠点

休日、自宅にいと、警視庁から電話を受けることがある。「近くで振り込め詐欺の電話がかかっているので、注意してください」と述べ、対処要領を教えてください。高齢者が住む世帯としてリストに載っているのだらう。

最初は、この電話が詐欺では

ないかと疑った。2年ほど前までは、振り込め詐欺の電話が時々かかってきた。区役所職員と名乗った若い男の声であるが、落ち着いて聞けば、こんな変な役人はいないと、がちゃんと切った。

警視庁からの電話は、安心になるが、やはり振り込め詐欺の

電話は、切った後も不安や不快な気持ちが残る。

若いころは、不安になることは少なかった。どん底で地を這いながら、他人に頼らず、独力ですべて処理して生きてきたからだ。そのような経験から「人生、何とかなる」と思うようになった。

しかし、高齢になってくると、不安が多くなる。専門的、技術的なことが発生する。時間や体力に制約がある。他の高齢者も同じだろうし、病気の、障害を有する人なども含めて、近年は、多くの人が「不安を抱える時代」になったのだらう。

かつての家族は多数だったし、近くに世情に通暁した頼りになる親族がいた。近所の人も助けてくれたものだ。今はがらりと変わってしまった。社会の分裂、デジタル化の進行、都市の変化等が急速に起こり、誰もが不安に感じる。高齢者や障害者など何らかのハンディを抱える人は、一層強い不安感に襲われる。

☆ 住民にとって安心を与えてくれる最大の拠点は、区市町村で

ある。最近の区市町村は、親切になった。昔は、お役所仕事で威張っている役人が目立った。図書館の職員さえいつも不機嫌そうだった。今は、こんな態度を取る役人がいれば、首長に直接苦情が出される。

私は、現在いくつかの自治体の業務に関係しているが、相談事業の実施など住民の様々な不安への対応に努力されている。しかし、区市町村は、マンパワーや予算の関係で漏れなく対処することはできない。そこで社会福祉法人、NPO、ボランティア団体、生活協同組合等の中間団体が、住民の不安の解消に貢献できる。営利企業は、性格上向かない。

済生会は、医療や福祉サービスを提供するとともに、なでしこプランやソーシャルインクルージョン計画推進を通じて住民の安心の拠点となってきた。能登半島地震発生時には多くの住民が、済生会病院に避難してきたのは、その証左である。「済生会が近くにあるならば、安心だ」と住民にとって頼りになる存在であり続けたい。

社会福祉法人
恩賜財団 済生会広島病院

広島のお腹の健康を守って38年

感謝と共に、内視鏡室リニューアルへ!

目標金額 1000万円 12月12日(木) 23時まで

快適な環境で検査と治療を受けられるように。
待望の内視鏡センター設立へご寄付を!

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

1. WEBサイトからのご寄付の方

WEBサイトからご寄付いただける方は、下のQRコード、もしくは検索から、クレジットカード、コンビニ支払いまたは銀行振込でご寄付ください。

済生会広島病院 レディーフォー

<https://readyfor.jp/projects/saiseikai-hiroshima>



2. 申込書を利用したご寄付の方

ウラ面の申込書にご記入の上、メールまたは郵送にてご提出ください。その上で、銀行口座にご寄付金をお振込ください。(お振込だけではご寄付を正常に受理できません。必ず申込書もご提出ください)

【お申し込み先】

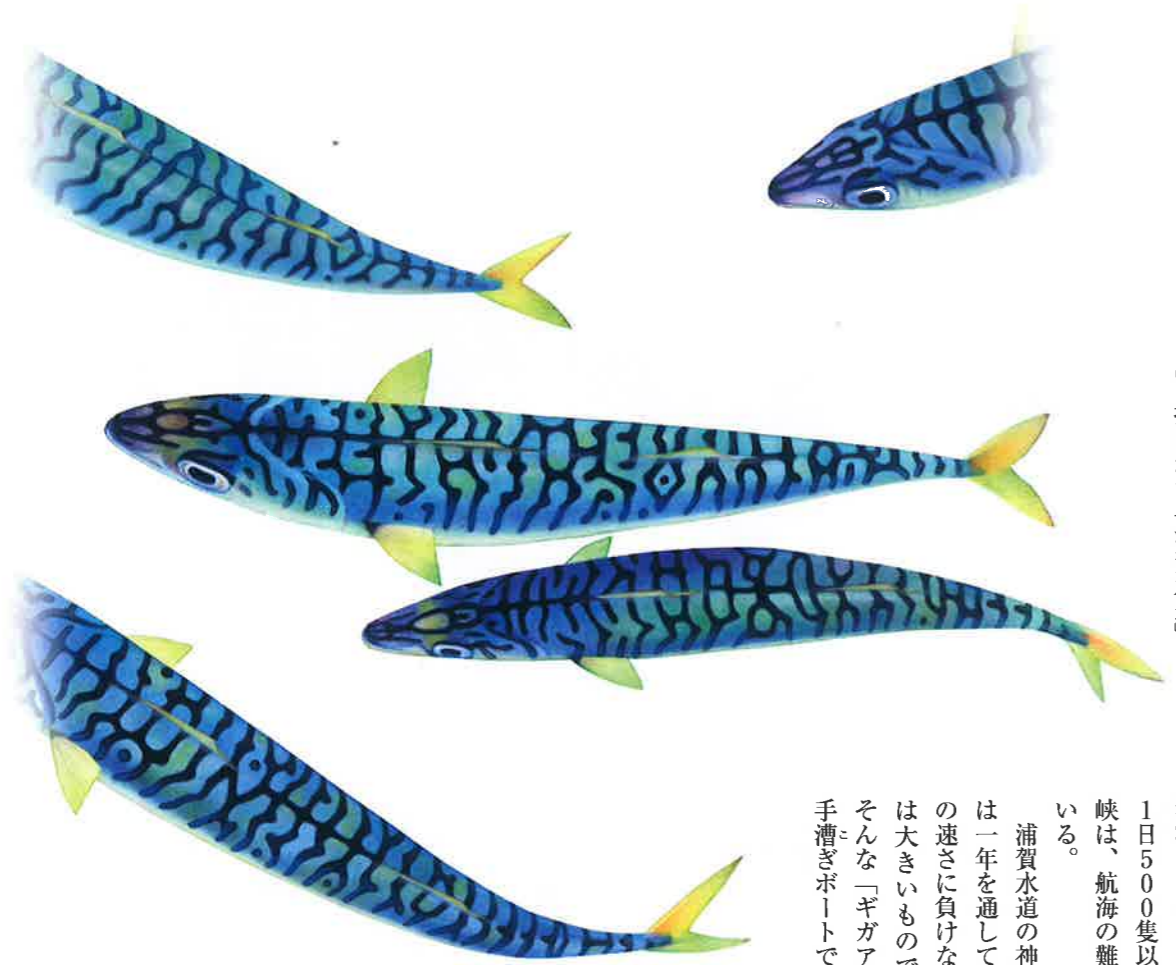
済生会広島病院 経理課
〒731-4311
広島県安芸郡坂町北新地2-3-10
電話：082-884-2566
メール：hiroshima-hp@saiseikai.com

【振込先】

金融機関：呉信用金庫
支店名：矢野駅前支店
口座番号：普通 1025774
口座名義：社会福祉法人恩賜財団済生会支部
広島県済生会
カナ：フク) オンシサイダンサイセイカイシブ
ヒロシマケンサイセイカイ

プロジェクトに関するお問い合わせは済生会広島病院 経理課へお願いいたします。

EMAIL : hiroshima-hp@saiseikai.com TEL : 082-884-2566



11月のたよりが聞こえる マサバ

神奈川・三浦半島と千葉・房総半島に挟まれた「浦賀水道」。

神奈川県横須賀市と千葉県富津市の海幅は6キロと狭く潮流が特に速い。1日500隻以上が航行するこの海峡は、航海の難所としても知られている。

浦賀水道の神奈川側、横須賀では一年を通してアジが狙える。潮流の速さに負けない運動量豊富なアジは大きいもので40センチを超える。そんな「ギガアジ」を狙って朝7時、手漕ぎボートで沖に出る。

ボートの大きさは公園でカッブルが乗るものと変わらない。違うのは速い潮に流されないように船を固定する50メートルのロープと漬物石ほどの重さがあるアンカーが備わっていること。沖上がりにこのアンカーを海底から引き揚げる

作業は重労働。翌日決まって筋肉痛になる。釣りでは転覆する恐れがあるため、立ち上がる姿勢は厳禁。そのため目線と海面が近いので針にかかった魚との駆け引きはボート釣りの醍醐味。大物が掛かると竿先が海面に突っ込むほどの勢いだ。

表紙のことば 食欲の秋、鯖街道をゆく

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

「美味しいものが食べたい」昔も今も変わらぬ老若男女全ての人の願いです。昔、京都の人も思いました。「美味しい鯖が食べたい」塩や酢で締めたりした鯖。鯖街道を運ばれ京都に着く頃には良い塩加減。

人々が喜びを乗せて食べた鯖。京都で鯖寿司の誕生です。これから脂も乗って美味しくなる鯖。この良い季節に新米に乗った鯖寿司を買って電車に乗って喜びも乗せて、どこか旅をしたいものです。



済生 SAISEI

CONTENTS NOVEMBER, 2024

- NEWSな済生人**
ボランティアとつくる「チーム医療」
〈愛媛〉今治病院
- 院長 松野 剛さん +
ボランティアコーディネーター 村上和美さん + 06
ボランティア 藤本博子さん +
越智るみ子さん

済生会交差点
《介護職の魅力って?》日本で働く! 介護福祉士。利用者さんからの「ありがとう」が何よりうれしい! 《行政・地域との協力体制構築》「地域連携懇談会」で独居高齢者や身寄りなし問題を考える 10

「済生」創刊100年! 《特別編》 16
沖縄県に済生会があったこと、ご存知ですか。

巻頭コラム 済生会の不易流行論 03
住民の安心の拠点 理事長 炭谷 茂

11月のたよりが聞こえる マサバ 05
表紙のことば 久保田真由美

ソーシャルインクルージョン 20

報告 済生会共同治験ネットワークを発信 24

済生会フェア 栃木県済生会 26

この人 **岡田結実** 28
口福にっぽん 吉井省一 30
だれでもかんたん てづくりおもちゃ 32
いまいみさ

TOPICS 34
載々、大雑報 90

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



2006年6月のボランティア活動立ち上げ時のメンバーで、16年間ボランティア活動に従事した山崎臣也さん。今年3月末をもって勇退した



①②③ 院内でさまざまな活動に従事しているボランティアさん

か2015年からコーディネーターとして活動しているんですね？
 村上 はい。当時、私は調理師として勤務していましたが、ボランティアコーディネーターをしてみないかとお声がけいただいたのが始まりでした
 原 「業務の合間を補う役割」とは？
 松野 患者さんが院内で困っている様子を見かけたら声をかけたり、緩和ケア病棟で患者さんの話を聞いたり、演奏会など院内

イベントのスタッフとして支援してもらったりと活躍の場はさまざまです。
 原 どのような年代の方が多くですか？
 村上 高齢の人が多くイメージがありますが、土日や長期休みの期間に来てくれる高校生や大学生もいるんですよ。
 原 多世代交流でいいですね。藤本さん、越智さんは、なぜ病院でボランティアを？
 藤本 会社を定年退職して時間ができたので、これまで興味を持っていた。病院で人



地域と病院をつなぐ「お節介さん」たちの無償の愛

〈愛媛〉今治病院

院長 **松野 剛** さん
 ボランティアコーディネーター **村上和美** さん
 ボランティア **藤本博子** さん **越智るみ子** さん

ボランティアとつくる「チーム医療」

今治病院は2006年6月に病院ボランティアを導入しました。現在26人が登録していて、外来受付の補助や車椅子の介助、緩和ケア病棟の活動をしています。患者と職員を支え、つなぐ「チーム医療」の一員でもある病院ボランティア。今治病院の活動について話を伺いました。
 (埼玉・川口総合病院 済生記者 原衣里奈)

原 今日、予定より早く今治病院に着いたので、実は外来ロビーでボランティアさんの活動を拝見していました。川口総合病院でもボランティアさんが活躍してくれているので、眺めていてうれしくなりました。

村上 あら、そうだったんですね。
 原 患者さんが笑いながら、何かボランティアさんと話していました。病院の中とは思えない雰囲気です。きでした！

松野 当院でよくある光景です。それではもう取材が始まっていたんですね。原 そういうことになりますね(笑)。改めまして、病院ボランティアを導入したきっかけを教えてください。

松野 2006年6月、病院職員が補えない。業務の合間を埋めてもらうため導入しました。私が院長に就任した2009年には、ボランティア活動がだいぶん根付いていて、村上さんは確

と関わることをしようと、ここでのボランティアを決めました。

越智 私はこの病院に受診に来たときに掲示板でボランティアの募集を知ったのがきっかけです。

医療者ではないから話せることもある

原 どんなことにもやりがいを感じますか。
 藤本 患者さんのおしゃべりです。人と関われることは、何物にも代えがたい喜びです。

原 患者さんは、ボランティアさんとおしゃべりをするだけで、話を聞いてもらいたい気持ちになることがあるそうです。川口総合病院では、ボランティアさんとおしゃべりをしていただいていた患者さんが「リハビリ、気乗りしなかったけど、いっちょ、頑張っているわ」と明るく言ってくれたことがあります。ボランティアさんのおしゃべりが、治療へ前向きに取り組むキッカケとなり、医療の助けにもなるのだと実感しました。
 藤本 私たちとの会話で患者さんが励まされ、少しでも「ほっ」としてもらえるのなら何よりです。

越智 私はティーマサービスボランティアとして緩和病棟で活動していますが、患者さんがすごく喜んでくれることがあるんです。原 えっ、何ですか？

越智 優しい色合いや花柄など家で使うような温かみがある器に入れてお茶を提供したとき、患者さんが「こんな器で飲むの久

患者さんに寄り添い チーム医療に貢献

ボランティアに立ち上げ当初から携わっていた高濱さん（前列左）は2019年に活動4000時間を達成、松野院長から表彰状が贈られた（「済生」2019年8月号より）



短い活動期間などでもボランティア活動に従事する高校生もいる

しづりじゃがね」「ありがとう」と話されるとうれしくて、逆に元気をもらえます。村上 緩和病棟には話し相手がいなかったり、自分の中に溜め込んだものを亡くなる前に話しておきたいと思われる方もいます。それをボランティアさんに聞いてもらっています。

にもなっているんですね。患者さんとはどのような会話がされているのでしょうか。村上 患者さんにとっては医療者ではない人だから話せることもあると思います。例えば家族や生活の話とか。原 そういう会話の中にも実は貴重な情報があつたりするかもしれないですね。



調整しながら、ボランティアさんたちのシフトを組んだり、活動の内容を決めたりといったサポートをしながら一緒に活動しています。原「済生」4月号で16年間活動したボランティアさんが引退された記事を読みました。長く続けてもらう取り組みはありますか。

松野 病棟の紹介が必要だと考えられる場合、総合医療支援室に患者さんを案内してもらっています。MSWと看護師、事務員が話を聞き、状況に応じた対応をします。



村上 ボランティア専用の部屋があります。日報を作成したり一緒に活動する中で、コミュニケーションをとる機会が多くあるのがいいのかもしれない。原 ボランティアさん同士、気兼ねなく話せる専用の空間があることも大事ですね。

原 まさに「チーム医療」ですね。そこにつないでくれるボランティアさんの役割とても重要ですね。



原 川口総合病院でも患者さんに感謝されることがやりがいだと聞きます。培ったボランティア精神を院内にとどまらず発揮してくださることで、地域医療を実現するために欠かせない存在となっているんですね。



ボランティア活動をしてよかったことを聞くと「自分の運動にもなる」「仲間ができた」など、自分自身が向上できたことも話していた

年ぶりに会食も再開して楽しそうなひとときでした。
ボランティア精神に火をつける!?
「業務の合間を補う役割」

村上 今治病院のボランティアさんの特徴は、私も含めて「お節介さん」が多いこと。患者さんの様子がいつもと違う、何かに困っていきそうだと感じたときは、こちらから

原 熱いですね！村上 バス会社に電話したり、パンクの状態を見たり、ズボンがずり落ちないようにゴムで止めたり、いろんなことがあります。これも松野院長が話した「業務の合間を補う役割」なんだと思いますよ。



原 なるほど。村上 つい「お節介さん」になってしまっている。それでも患者さんに喜んでもらえることは、ボランティア冥利に尽きると思います。

原 患者さんに近い立場で接することができるといいですね。村上 話の聞き手として「携帯をバスに忘れた」「自転車のタイヤがパンクした」「ズボンが下がってくる」など個人的な事情なこともよくあります。そういうときは皆さんボランティア精神が燃えるようです（笑）。



原 松野 病院ではさまざまな職種が患者さんを支えています。しかし業務以外のところでも患者さんに寄り添える病院であるために必要な役割があります。ボランティアさんはそれを補ってくださる大切な存在です。そして、職員がそんなボランティアさんの背中を見ることが、患者さんにとってよりよい関係を築くためのお手本にしていることでもあるのだと思います。

今治病院のボランティアさんたちは、初対面なのにそれを感じさせない前から知り合いのような親しみあふれる雰囲気。とにかく明るく元気にお話しされます。ボランティアを終えて……

原さん インタビュアーの原さん ティアさんたちは、相手がいま何を必要としているかを考え、また思いに寄り添い、そこに一歩踏み出す勇気のある素直な「お節介さん」だと感じました。（原衣里奈）



第2期留学生・ネパール出身のアンビカさん(左)とともに、潮光園の玄関前で



第1期留学生で現在職員のエエインさん(左)とアンジャンナさん

令和3年から指定管理を受け、令和4年に新築移転をした

日本で働く！ 介護福祉士 利用者さんからの「ありがとう」が 何よりうれしい

介護職の 魅力って？

〈和歌山〉
特養潮光園

特養潮光園では留学生の受け入れ準備を令和3年度に開始。パンディアンジャンナさんとエーミヤツエエインさんは令和4年度から2年間、和歌山社会福祉専門学校で勉強しながら同園でアルバイト

トとして勤務し、介護福祉士資格を取得しました。今年4月から正職員として働いている2人に、介護の仕事や日本の暮らし、目標などについて聞きました。

- ① 現在担当する業務
- ② 日本で介護福祉士として働くことを決めたきっかけ
- ③ 日本の暮らし
- ④ 今後の目標

① 1階の多床室(4人部屋)を担当。利用者さんの入浴や食事、起床と就寝の介助を主にしています。服薬の介助や、生活援助として部屋の掃除や片付けなども行ないます。ユニット(個室)と違い、多床室では同時に複数人から声をかけられることもあり、対応が難しいと感じます。

② 来日前はシンガポールで4年間、会計関連の仕事をしていました。次は別の国で働くかと思ったときに、日本は一人暮らしをするのに最も安全だと考えました。大阪で1年間日本語学校に通い、グループホームでのアルバイトをきっかけに介護の仕事に興味を持ちました。

③ 旅行が好きでいろいろな所に行きますが、和歌山が一番良かったのは那智の滝。とてもきれいで何度も訪れたと思います。音楽を聴いたり、歌つたり、さまざまな国のドラマを観たりすることも楽しいです。食事は毎日自炊。豚肉を使った料理が得意です。

④ 利用者さんが「来てくれたんだ、ありがとう」と喜んでくれたり、「今日はここが痛いよ」など自分が感じていることを話してくれたたりすることもあり、少しずつ信頼してもらえていると感じています。今後は利用者さんの毎日の過ごし方を細かくとらえて見て、一人ひとりのニーズに合った支援ができるようになりたいです。



パンディ アンジャンナさん
ネパール出身

エーミヤツ エエインさん
ミャンマー出身

① エエインさんと同じく1階の多床室(4人部屋)で利用者さんの介護や生活のお手伝いをしています。日勤・夜勤・遅出を交代で担当。特に大変だと思うのは食事介助で、誤嚥の恐れ

ある利用者さんもおられるため、注意して行なうように意識しています。

② 東京在住の親戚から、日本は治安が良く一人でも暮らしやすく便利だと聞き、日本に行くことに興味を持ちまし

文化の違いはお互いに 理解し合うことが大切

「指導者側より」

2人はコミュニケーション能力が高く、また業務を学ぼうとする姿勢が素晴らしいです。こちらからの指示がなくても自ら率先して動いてくれ、周りの職員はとも助かっています。利用者さんからも愛されています。

外国人だからと気を使う場面はほとんどありません。生活面でも2人で助け合いながら、自分のこと何でも自分でやるので頼もしいですが、必要なことがあれば相談するように伝えています。

海外人材を受け入れるにあたっては、文化の違いをなるべく許容するようにしています。例えば時間の観念など、日本人と同じ感覚で対応はせず、ある種の幅を持た

た。子どものころ、両親が祖父母の世話をするのを手伝っていた経験があります。高齢の方に何かをしてあげたときに「ありがとう」と言ってもらえるのがうれしく、それを仕事にできるといいなと思いました。

③ 静岡の日本語学校に1年間通った後、和歌山へ。専門学校在学中に夫が、卒業時にも歳の娘も来日し、今は家族3人で暮らしています。食事はニンニクとパクチーたっぷりのネパールカレーを毎日作っています。

④ 利用者さんにより良い生活を送ってもらえるように、困っていたらすぐに気づけるスキルを身につけ、職員同士相談しながらチームで対応していきたいです。

せることが大事。一律に切り捨てはせず、やっていく中で互いに理解していければいいですね。

今年度からは第2期留学生としてネパール出身のタパ マガル アンビカさんが当園で働き始めました(本誌8月号「トピックス」P30掲載)。こうして受け入れ経路をつなげていくことで、外国人採用の土壌をしっかりと作っていきたいと思います。



*写真撮影時のみマスクを外しています

利用者さんの笑顔に支えられ 乗り越えてきた20年



素川さん(左)と松本さん

松本賀子さんは平成12年、素川一恵さんは平成14年に入職。令和3年に潮光園の運営が済生会に移った際も、離職者が多くいた中「介護の仕事をやりたい」と続ける選択をしました。

これからの時代を見据えて 介護の仕事を選択

介護副主任 松本賀子さん

働き先を探していた当時は、ちょうど介護保険制度が創設されたタイミングでした。高齢化が進むこれからの時代、高齢者や障害のある方々の力になれる介護の仕事をやってみようと思いい、この仕事を始めました。実務経験を経て介護福祉士の資格を取得しました。

の方に喜んでもらえることにやりがいを感じています。また、コロナ禍前は利用者さんと一緒に出かける機会や年間の行事も多くありました。運動会では利用者さんが入れ歯を飛ばすほど活発になって盛り上がりだったり、外食会では普段食の細かい人がお代わりをしたり、利用者さんが笑顔で楽しんでくれる姿を見るとこちらもうれしくなります。

① 地元と自治会との交流を目的に大王製紙の協力のもと「おむつ講習会」を実施。正しいおむつの選び方・付け方を学ぶ ② 近隣高校の学生をインターンシップで受け入れ、実習を通して介護の「厳しさ」と「楽しさ」を学んでもらう ③ 令和4年4月に新卒採用された藤田真央さん。入職当時は移乗が苦手だったが、実践を通して一人で行えるようになった

子どもが小さいころは夜勤で出かけるときに泣かれてつらい思いをしたことも。大柄な人の車椅子への移乗など体力的にきついこともありましたが、同僚と相談し合い、励まし合いながら家族のためにずっと働いてきました。ときには職員同士で遊びに行きリフレッシュしています。

潮光園の地域交流活動



祖母の姿を見て介護の道へ 息子にも思いをつなぐ

介護副主任 素川一恵さん

寝たきりの祖父を祖母が在宅介護していたのですが、自分一人で見るという意志が強くて、子や孫である両親や私には手伝



全国老人福祉施設協議会から15年勤務感謝状を授与。左から浦崎施設長、看護責任者の陶山安佐子さん、素川さん、松本さん

わせてくれませんでした。小柄な祖母が一生懸命やっていたのを傍らで毎日のように見守り、少しでも楽にしてあげたいと思いい、ホームヘルパー2級(現・

ピンチをチャンスに！ 人づくり・職場づくり

施設長 浦崎弘之さん

事務責任者 山崎良彦さん

昭和53年に開設以来、地域の高齢者福祉を支えてきた潮光園。令和3年に済生会が指定管理を受託しましたが、前設置者から引き継ぐ際、40人余りいた職員



山崎さん 浦崎さん

介護職員初任者研修)資格を取得し介護の勉強を始めたのがこ

のうち済生会に転職したの

は約半数という状況でした。なんとか職員を集めてスタートを切ることができたものの、新築移転の予定がコロナ禍で大幅に遅れたり、やっと移転できたと思ったらコロナ感染者が多数発生したり……その後もまさにピンチの連続。厳しい状況を乗り越えることができたのは、現場の職員たちが力を合わせて対応してくれたおかげです。

移転が遅れた期間は「人材育成の集中期間」と前向きに考えることに。ユニットリーダー研修や認知症介護実践者研修、喀痰吸引研修など、外部の研修への参加を積極的に職員に促し、多くの人が資格を取得するようになりました。

長期的な人材確保の体制強化を見据え、令和3年秋には留学生の受け入れ条件を決定。留学生が住むアパート、冷蔵庫や洗濯機などの電化製品、自転車を

の仕事に就いたきっかけです。利用者さんの笑顔をもらえる

無償提供することとし、アルバイトの時給を千円と高めに設定して翌年1月の留学生との面談に臨みました。マッチングの結果、日本語能力の高いエインさんとアンジャンナさんを受け入れることができました。

留学生の受け入れに関する事務手続きは専門学校が対応してくれますが、一番苦労したのはアパート探しです。通学の便を考慮し駅に近く、かつ当園へも自転車を通える範囲の物件をタイミング良く確保するのは大変でした。当初は2人で一緒に住んでもらおうと思っていました

が、国や文化の違いも考慮し別々に借りました。人材育成・確保とともに、その定着のための働きやすい環境づくりも大切です。見守り機器(眠りスキャン)やタブレットによる介護記録システム(ケアアレット)、インカムの導入など、業務効率化を図るためのICT化も積極的に進めているところ

とやりがいを感じます。利用者さんに合った対応を試行錯誤し

行政・地域との 協力体制構築

〈富山〉高岡病院
医療ソーシャルワーカー
若山優子

ていますが、介護の現場ではさまざまな場面に遭遇します。特に印象に残っているのは、100歳の利用者さんの状態が悪化し夜間に救急車に来ても

らったときに、暴れて「こんな人いらん」と酸素マスクを自分で外してしまい、救急隊員から「本当に100歳ですか」と驚かされたこと！

仕事上の苦労はたくさんありすぎるくらい。でも、それを苦勞と思わないくらい楽しさも感じています。だからこそ20年も介護の仕事をしてこられたの

かもしれない。そんな私の姿を見て育った長男は高校卒業後、同じ介護の仕事に就きました。30代半ばの今も続けており、とてもうれしいです。

「地域連携懇談会」で独居高齢者や身寄りなし問題を考える

当院は富山県北西部の高岡市に位置し、急性期から回復期まで医療を総合的に提供する251床のケアミックス型病院として、人口約30万人の高岡医療圏の地域医療を担っています。また、高岡市やイオンモール高岡と協定・覚書を締結し「持続可能なまちづくり」を協力して進めています。

近年、一人暮らしの高齢者が

急増しており、身元保証がないことで医療が受けられなかったり、選択肢が制限されたりするなど、「身寄りなし問題」としてさまざまな課題が生じています。身寄りがなくても排除されることなく、安心して住み



筆者

慣れた地域で生活できる社会をつくるには、当事者・行政・支援者が三位一体となり協力体制がとれるように連携を図ることが必要不可欠。MSWである筆者が「身寄りなし問題」を地域課題として取り上げ、行政や地域に働きかけて研修を実施した



済生会におけるソーシャルインクルージョン推進の取り組み
医療社会事業部医療社会事業課・宮森順也係長（MSW）が済生会のソーシャルインクルージョン推進の取り組みについて説明



講義後、ワールドカフェ方式でグループワークを実施。シャドーワークについて話し合い盛り上がる

行政・ケアマネ・病院 三者の協力体制を構築

取り組みを紹介します。済生会には「済生会身寄りなし問題研究会」という横断的研究組織があり、神奈川県病院地域交流室長・鎌村誠司さんを

中心に、定期的に研修会を開催。筆者も参加し、身寄りなし問題に対して自分の地域でも取り組んでいくことができないか考えるようになりました。

当院では意見交換や相互のスキルアップを目的として、地域のケアマネジャー（以下、ケア

マネ）や関係機関を対象に年2回「地域連携懇談会」を行っています。まずはこの場で身寄りなし問題を取り上げようと考

えました。しかし、それまで接点のなかった行政をどう巻き込んでいけばよいか悩み、市役所の福祉連携推進室に相談。当院で身寄りなし問題について話し合う場を設定し、一緒にこの問題について取り組みを行いたいと伝えたところ、理解を得ることができました。

その後、高岡市福祉保健部、高岡市社会福祉協議会、地域のケアマネと当院スタッフが参加し6月21日に開かれた事前会議では、身寄りなし問題に取り組みするための協力体制について話し合い、行政・ケアマネ・病院が協力して研修を実施することに決定。7月24日の地域連携懇談会「独居高齢者、身寄りなし問題について考えよう」をテーマに開催することになりました。

立場・視点が違う人の 意見を聞き「気づき」を共有

地域連携懇談会当日は院外54人、院内18人（院長、看護部長、事務長他）の合計72人が参加しました。川端雅彦院長の開会のあいさつに続いて、医療社会事業課・宮森順也係長（MSW）が当院でのソーシャルインクルージョ

ン推進の取り組み、済生会設立の歴史や理念について説明。その後、梅田忠志ケアマネから身寄りなし独居高齢者の支援について、経験談も踏まえて講義をしてもらいました。ほかにもケアマネの本来の業務に加え、利用者のために行なわざるを得ない業務外のシャドーワークについての話がありました。



最後に、高岡市社会福祉課・宮前健二係長が「高岡市とケアマネの現状を知ることができた。市として何ができるのか考えていく必要がある」と総評

た「行政と連携し一人ひとりに寄り添ってくれる病院だと思った」「ケアマネの大変さを理解できた」など高評価が多く、済生会や当院について一定の理解が得られたと同時に、当院スタッフも地域への理解を深めることができました。

身寄りなし問題は簡単に解決できるものではありません。継続して取り組むことが重要です。今回の懇談会で出た意見や地域課題は参加者皆で共有し、行政ともさらに話し合っていく予定です。

今後も済生会地域包括ケア連携士として、地域課題を見つめ、関係機関と連携してソーシャルインクルージョンの理念を具現化できるよう努力してまいります。



当院患者総合支援センターのメンバー。看護師とMSWで構成されている。地域と病院をつなぐ最強のチーム！



「濟生」創刊100年《特別編》

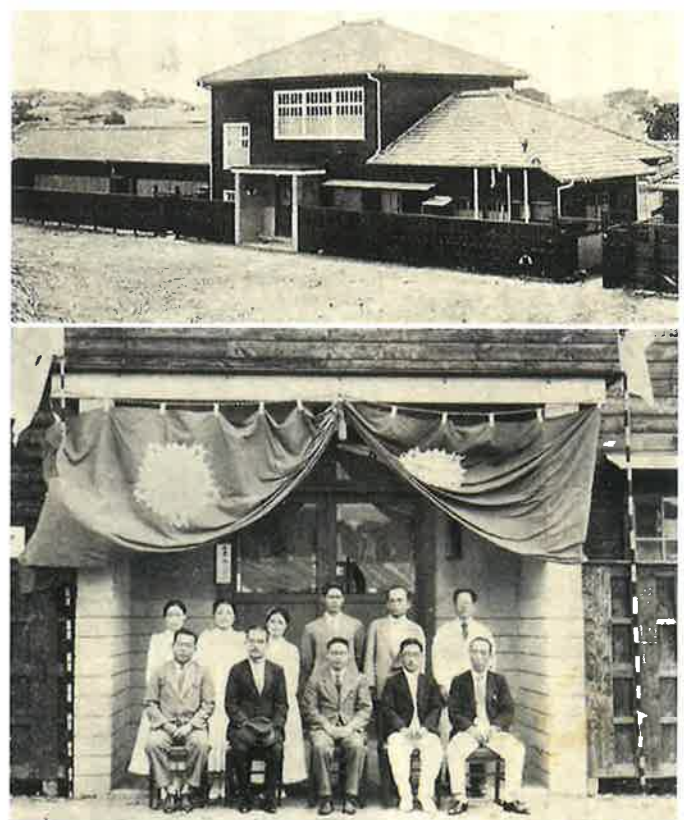
沖繩支部の歴史

沖縄県に濟生会があったこと、ご存知ですか。

戦前、濟生会は全都道府県に支部があり
沖縄には昭和12年5月に那覇診療所が開設されました。
機関誌「濟生」や関連書籍から沖縄県支部の足跡を辿ります。
(本部総合戦略課 旗手厚太郎)

なぜいま沖縄なのか

濟生会が令和4年7月にまとめた「支部未設置県解消等濟生会の基本的あり方に関する検討会報告書」。この報告書では「本会の理念に基づく活動に対するニーズが高まっており、全国域に提供する必要があり」とされ、「支部未設置7県の中でも歴史的・地理的に他県とは大きく異なった状況に置かれている沖縄県を優先的に支援する」ことが、第3期中期事業計画(令和5~9年度)に盛り込まれた。



【上】完成したばかりの那覇診療所の全景。【下】那覇診療所開所式の記念写真。前列左端が千原成梧所長。「濟生」1937(昭和12)年9月号より

込まれました。本会では沖縄県支部復活に向け県内の関係者と意見交換を行なう中で、沖縄県中部圏域の町村(読谷村、嘉手納町、北谷町)と障害者支援をテーマに、インクルーシブ社会の建設に向け、共に考えていくシンポジウムを開催することになりました。

那覇診療所開設の経緯

濟生会は大正9年2月、「沖縄県救療規程取扱手続」を定め、沖縄での活動をスタートします。当初は濟生会の施設はなく、県

衛生設備が整っておらず、栄養状態も悪く、衛生教育も行き届いていない中で、沖縄特有の気候も相まって赤痢や腸チフス、デング熱などの感染症に県民は苦しんでいました。昭和に入ると全国で濟生会の診療所の開設が相次ぎ、沖縄にも診療所の開設を望む声が官民から広がります。昭和9年3月には県知事が濟生会本部に診療所設置を要請。那覇市が用地を提供、財団法人三井報恩会からの寄付金などで那覇診療所の建設がはじまり、昭和12年5月15

日に開設、診療を開始しました。初代所長・千原成梧医師 診療所開設時の職員は所長の千原成梧氏、医員・安次嶺幸英氏、調剤員・識名朝義氏、看護婦・當眞芳子氏、同・當眞サタ氏の5人です(右ページ写真)。千原所長は明治18年に那覇市で生まれ、熊本医学専門学校(現



交通が不便な村や字だけでなく、離島にも巡回診療班が訪問し、役場や公民館を借りて診療を行なった。「濟生」1936(昭和11)年1月号より

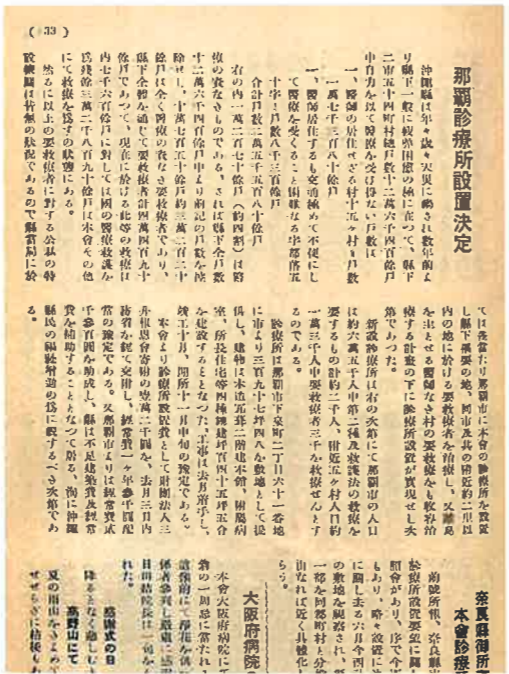
熊本大学医学部)を卒業後、東京や台湾でキャリアを積み、昭和4年に沖縄県の衛生技官に就きます。濟生会那覇診療所の開設を機に所長として招聘されました。

千原氏の人柄を示す記事が「沖縄県人事録」(沖縄朝日新聞社編)に残されています。「侠氣に富み、好んで人の難に赴き、又慈善の志厚く貧者を恤救するが如きは是わが天職として唯一の娛となし、(中略)名実ともに仁医としての面目を發揮す」。濟生会の理念を体現したような人格者であったことがうかがえます。

戦時下の巡回看護

日中戦争の戦線の拡大に従い戦地への召集や戦死などで働き手を失い、生活が苦しくなる家庭が増加する中で、出征軍人遺家族への巡回看護が内務省主導で行なわれることになり、濟生会がその任を担いました。

しかし、開設間もない那覇診療所には巡回看護のノウハウがなかったため、看護婦の當眞芳子氏は濟生会本部に1週間の研修に行きます。芝病院(現濟生会中央病院)や都内の濟生会診



多くの県民が医療にアクセスできない状況や那覇市周辺に生活困窮者が多く居住することから那覇診療所設置が決定された。「濟生」1936(昭和11)年8月号より

戦禍と沖縄県濟生会

昭和19年になると沖縄にも戦禍が迫ってきます。手術室や病室を完備する那覇診療所は沖縄陸軍病院の外科病棟として使用されましたが、同年10月10日の大空襲で焼失してしまいました。沖縄県支部は空襲を免れた普天間にある県の中部地方事務所に移転するも事業継続は不可能になりました。

濟生会本部も沖縄県支部と連絡が一切つかなくなってしまう、戦後の物資不足や混乱を極めた状況下で理事会の議事録等も残っていません。当時の沖縄県支部の資料をお持ちの方がいらっ

誰一人取り残さない社会を創って

障害者支援の課題とインクルーシブ社会

シンポジウム

2024年11月22日(金)
13:30 → 16:30

読谷村文化センター
中ホール

〒904-0392 沖縄県中頭郡読谷村
字座喜味2901番地

入場無料 | 要事前申し込み (当日参加可)

申込締切: 11月19日(火)
定員 200名
定員になり次第締め切ります
お申込みはこちら



主催・お問い合わせ



社会福祉法人 事業部 総合戦略課
恩賜財団 済生会
おんしざいだん さいせいかい
03-3454-3076
si_symposium@saiseikai.or.jp

後援 読谷村・嘉手納町・北谷町

開催地ごあいさつ 読谷村長 石嶺 傳實 氏

基調講演

インクルーシブ社会の建設に向けて

社会福祉法人済生会 理事長 炭谷 茂

パネルディスカッション

読谷村・嘉手納町・北谷町における
障害者支援の現状と課題

児童福祉法の改正、障害福祉サービス等報酬改定により、児童発達支援センター等の地域における中核機能が求められています。インクルーシブ社会をキーワードに、3町村の児童発達支援等障害者支援の現状と課題を通じて、誰一人取り残されない社会について一緒に考えていきます。

コーディネーター

沖縄県障害者等相談支援体制整備事業
中部圏域アドバイザー 津波古 悟 氏

コメンテーター

社会福祉法人済生会 理事 松原了

パネリスト

沖縄県中部圏域自立支援連絡会議
療育・教育部会長 高江洲 夢美 氏

読谷村相談支援事業 委託相談員 豊見里 さやか 氏

嘉手納町相談支援事業 委託相談員 金城 優 氏

北谷町相談支援事業 委託相談員 山城 健児 氏

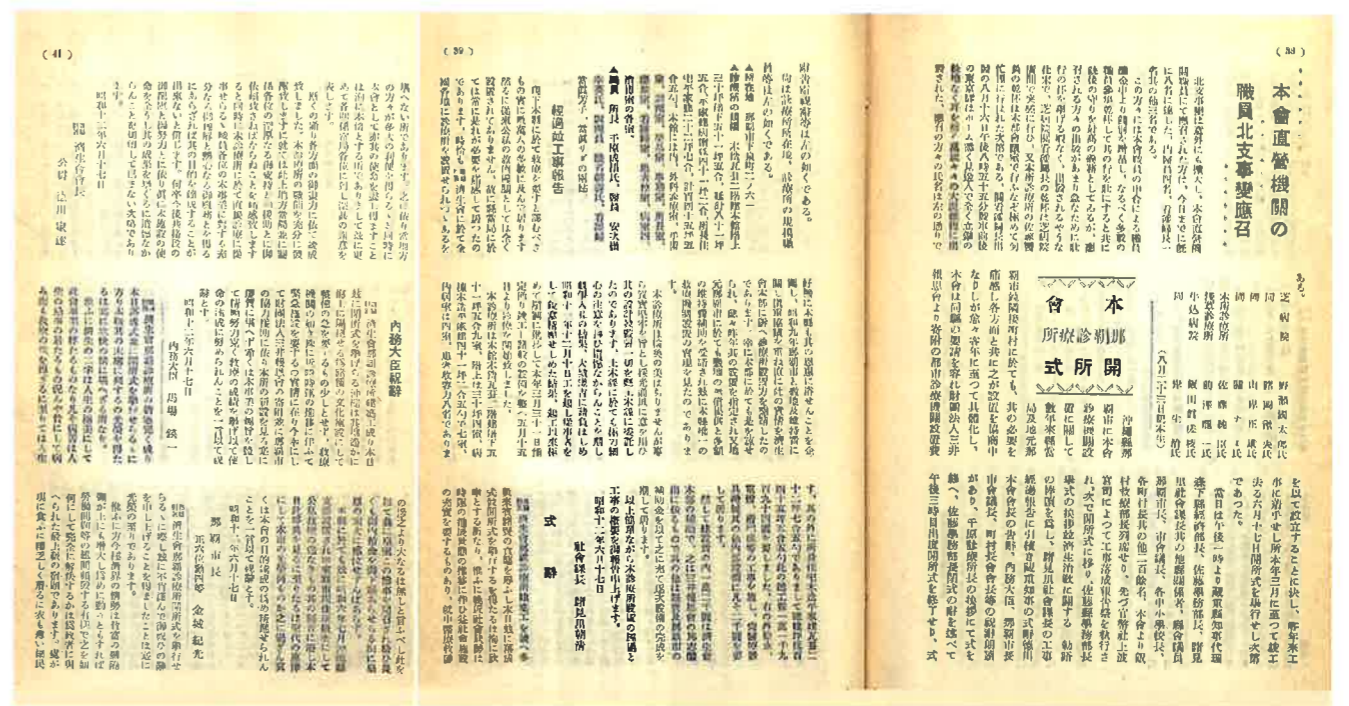
済生会熊本福祉センター
済生会なでしこ園 水橋 さおり



那覇市役所付近(那覇市泉崎1-9)にある石碑。かつてこの場所に済生会の診療所があったことが記されている(写真・図版=那覇市歴史博物館所蔵)

しゃいましたら、ご連絡いただき
けますと幸いです。
沖縄県支部復活への展望
かつて那覇診療所が地域の声
によって設立されたように、支

部復活に向けては住民や行政か
ら済生会が必要とされること
が不可欠です。シンポジウムを
通じて、済生会の理念やソーシ
ャルインクルージョンの取り組
みを沖縄県の方々に紹介し、少
しでも知ってもらうことが支
活の第一歩になると感じました。



「済生」1937(昭和12)年9月号では、5ページにわたって開所式の模様や、済生会会長や沖縄県知事らの祝辞の全文を伝えている

千原所長の妻・繫子氏は沖
縄県初の女性医師でした。東
京女子医科大学を卒業後、小
児科医として那覇市内に開業。
千原小児科医院で昼夜を問わ
ず診療にあたりながら、沖縄
県女子師範学校や沖縄県女子
師範学校衛生婦養成所の講師
も務め、衛生思想の向上や医
療人材の育成に尽力しました。
戦後は昭和25年に発足した
アメリカ政府の諮問機関「臨
時琉球諮問委員会」の委員11
人中で唯一の女性委員となり、
女性の地位向上にも努めまし
た。

- 千原繫子(1978)「随想 カ
ルテの余白」若夏社
- 長田紀春・具志八重(1992)
「閃光の中で」沖縄陸軍病院の証言
ニライ社
- 具志八重・小渡静子(1988)
「沖縄戦前保健婦の足あと」ニライ
社
- 沖縄タイムス社編 千原繫子(1
980)「私の戦後史 第2集」沖
縄タイムス社
- 沖縄朝日新聞社(1937)「沖
縄県人事録」
- 済生会五十年誌
- 機関紙「済生」

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。
 無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
 だれも排除されないまちづくりを目指し、
 全支部・施設が1600の事業を展開します。

ワコールと連携協定締結 全ての人々が豊かに暮らせる まちづくりを

京都済生会病院



9月9日、当院と株式会社ワコール（京都府）は「インクルーシブなまちづくりに向けた連携協定」を締結しました。同日、協定締結式を行ない、当院からは吉田憲正院長（当時）ら経営幹部に加え、魅力・ブランドづくりプロジェクトのメンバー11人が出席。協定締結を記念して、ワコールから使い切りインナー

700セットが寄贈されました。これまで当院とワコールは、済生会フェアなどで協力関係を構築してきました。今後は互いの知見や技術などを活用して地域の社会課題解決に取り組んでいきます。

「ゆりかごからゆりいすまで」、当院のコンセプトは「出産からみとりまで」。全ての人々が豊かに地域で暮らすためのまちづくりを目指します。
 （魅力・ブランドづくりプロジェクト 松岡志穂）



イオン唐津で健康フェスタ 子どものハートをつかむ 体験コーナー

〈佐賀〉唐津病院

9月21・22日、「健康フェスタ」未来のドクター・ナース体験してみませんか？」をイオン唐津店で開催しました。今回は、地域で不足する医療

従事者の問題に着目し、①内視鏡や腹腔鏡の操作体験ができるドクター体験②血圧測定やSpO₂測定、聴診、傷の手当ての模擬体験ができるなりきりナ

356人の子どもを含む500人以上が参加。「子どもが希望して2日連続で来ました」「このような楽しい企画は

1ス体験③大人と幼児の人形を用いたAED体験④医療職のユニホーム試着体験⑤無料健康相談会を実施しました。2日とも盛況で、

毎年やってもらいたい」「直接医療職の人と話せてうれしかった」などの声をいただきました。
 （医療福祉相談室長 梶原 順）

病院敷地内にリニューアルオープン 新生なでしこトレイン、発車オーライ！

〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑

就労継続支援B型事業所・松山ワークステーションなでしこは、9月3日に「パンとカフェなでしこ（なでしこトレイン）」を松山病院敷地内にリニューアルオープンしました。建物が見えたという職員の間から外観は電車に、愛称も「な



51人ものお客さんが来て大盛況となりました。利用者さんが働きやすい環境を整え、製造した菓子パンや鯛めしを販売することで、やる気アップにつなげていきたいと思っています。皆さんの夢の実現に向け、なでしこトレイン発車です。
 （松山ワークステーションなでしこ 稲田二世）

12月1日には、東京ビッグサイトで開催される「なでしこフェスタ」に東京済生会が出展予定。ソーシャルインクルージョンのまちづくりに向けた連携が深まっています。
 （総合戦略課 旗手厚太郎）



コープみらいから 食品の寄贈
 9月20日、コープみらい東京本部で行なわれた式典に参加し、本会に寄贈されたレトルト食品などコンテナケース2箱分の食品に対する感謝の意を伝えました。
 本会とコープみらいは昨年「なでしこトレイン」に決まりました。オープン当日は利用者さん5人も参加。地方紙の取材もあり、

5月、誰一人取り残さないインクルーシブ社会の実現に向けた連携を強化する協定を締結。以来、本会が運営する子ども食堂やフードパ



生活に困窮する外国人対象に 10カ国語対応の無料健診・相談会

〈栃木〉宇都宮病院



9月14日、「外国人医療相談会」をNPO法人北関東医療相談会との共催で、5年ぶりに当院で開催しました。
当日は、36人の外国人が来場。多くの職員・ボランティアの協力により10カ国語に対応できる体制をとり、法律相談や食料品・生活用品の配布なども併せて行ないました。
健康診断で問題があると診断された人には、後日の精密検査



稲見一美 地域連携課長 (MSW) は「今回の相談会では非正規滞日外国人が8割を占め、彼らへの支援の重要性が改めて

や適切な医療機関の案内も実施。ある受診者は結核が疑われ、保健所と連携をとり入院治療につながりました。

なでしこプランの一環で、9月25〜27日、社会福祉法人「三条市手をつなぐ育成会」の障害

障害者施設で巡回健診 医療と福祉の懸け橋を目指して

〈新潟〉三条病院



者施設で巡回健診を実施し、3日間で101人が参加しました。
当院は昭和60年に検診車を導入して以降、事業所検診に取り

浮き彫りになった。今後もこのような無料健診・相談会を開催したい」と今後の展望を話しました。
(地域連携課 秋山綾香)

組んできました。今では市内のほとんどの障害者施設での健診を当院で行っており、健診とインフルエンザ予防接種については減額対応をしています。
同会での健診は毎年行なっているため和気あいあいとした雰囲気。健診を楽しみにしている利用者さんもいるそうです。
また、障害者施設を応援するために当院の正面玄関には各施設の活動紹介コーナーがあり、売店では施設で作られた商品を販売しています。これからも医療と福祉の懸け橋となるような活動を続けていきます。
(済生記者 樋口拓也)



イオン今治新都市で防災フェスタ 親子で楽しく学べるイベントに198人



9月8日、防災時に役立つ情報を伝えるイベント「防災フェスタ」と健康相談会をイオンモール今治新都市で開催し、198人が参加しました。
防災フェスタでは、親子で参加できる企画を意欲。BLS講習、防災教室、新聞スリッパや光る缶バッジ、紙灯笼、トゲトゲボールを作るコーナー、避

〈愛媛〉今治病院

防災・災害医療をテーマにフェア開催 体験型イベントに870人

〈福岡〉二日市病院



害医療について」を開催し、870人が来場しました。
今回はイオンモール筑紫野ほか筑紫野市、大塚製薬株式会社とコラボ。防災に関する講演会、応急処置体験、模擬避難所・備蓄品等の展示、消防士体験(筑紫野太宰府消防本部協力)、毎回好評の健康測定を行いました。

と」と題し、自身の被災地支援の経験をもとに被災地の様子や避難生活での注意点を話しました。
参加者からは「とても参考になった。これからも地域に根差した情報を発信してほしい」などの感想がありました。
(経営戦略課 都甲七桜)

また、今回はボランティアアサークル「さくらんぼの会」協力のもと、同年代の子どもに企画案内をしてもらうことで、参加する子どもが緊張せず楽しめる雰囲気をつくりました。
それをもって、BLS講習にも子どもたちが積極的に参加。タオル体操も好評で、子どもから大人まで幅広い層が参加してくれました。
(済生記者 村上景助)





製薬会社、医師をはじめ50人以上の治験関係者が済生会の取り組みに興味を持ち、ブースに立ち寄った

済生会共同治験ネットワーク展示ブース



【左】横浜市南部病院の安岡さん 【右】中央病院の亀田さん

済生会臨床試験研究会長として標準業務手順書（SOP）の済生会グループにおける統一化に向けた取り組みを発表しました。

キーワードは 国際標準化と効率化

今春、国は「創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議」の中間とりまとめを発表。同会議では日本における医薬品産業の国際競争力低下やドラッグラグ／ドラッグロスの改善について

多く議論されました。その解決のキーワードは「国際標準化と効率化」だと筆者は感じます。

第24回CRCRあり方会議では、日本国内で実施をする全ての医療機関の審査を一括で審議する「IRB」のシングル化や治験費用算定方式についてFMV（市場適正価格）の導入と課題も議論されました。

効率化はDXの他にもDCT（分散化臨床試験）、PPI（研究への患者・市民参画）、人材育成など幅広い内容に焦点が当てられました。

今般、CRCRあり方会議に出席して、治験環境の変化を目的の当たりになるとともに臨床試験や治験に関わる人々と交流、意見交換することができました。

来年はより多くの済生会職員が参加し、本会の存在感を高めて行きたいと感じた学会でした。



済生会参加者。左から4人目が筆者



今年デビューした済生会キャラクター「さいせい」もお披露目

報告 第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2024 済生会共同治験ネットワークを発信



日本の創薬力の向上には 国際標準化と効率化の促進が鍵

治験に関わる国内最大の学会「第24回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2024」が9月15・16日に、〈北海道〉札幌コンベンションセンターで開かれ、1500人以上が来場。web参加をあわせると3000人以上が参加し、治験について議論しました。本学会には済生会から本部と病院の職員が参加しました。

本部共同治験推進室室長 **大山彰裕**

済生会共同治験 ブースを初出展

病院や製薬会社などを支援する企業や臨床試験の中核を担う病院群、臨床試験を支えるシステム会社等がブースを構える中、済生会も共同治験ネットワークのブースを初出展。本部共同治験推進室から筆者を含め3人が参加し、本会の共同治験事業について、済生会のセントラル機能やDXの取り組みを紹介しました。

済生会病院の治験担当者 それぞれの取り組みを発表

会議には〈東京〉中央病院、〈神奈川〉横浜市南部病院、〈三重〉松阪総合病院、岡山済生会総合病院も参加しました。15日は中央病院臨床研究センター治験管理室の亀田高寛さんが「実測！ クラウドシステム導入後の事務業務の負荷軽減量」と題して、治験手続き文書をクラウド上で保存・管理する「Agatha」を用いた業務効率化を発表しました。

横浜市南部病院臨床研究支援センター治験管理部の安岡晋吾さんは「済生会セントラル

IRBの活用とその有用性について」と題し、被験者の人権や安全性について審査する治験審査委員会（IRB）を自院から済生会本部のセントラルIRB（済生会中央IRB）に移行したことで、業務負担が軽減されたことを報告。移行により治験依頼者から「済生会の病院が一括で審議可能となり、費用の削減や効率化につながった」と評価されたと話しました。

16日は中央病院の亀田さんが再び登壇、15病院24人が属する



第24回をむかえて、初の北海道開催。国際都市札幌の象徴「札幌コンベンションセンター」で行なった

済生会フェア2024を栃木県で開催



医療と福祉でつなぐ 地域の笑顔と済生会

栃木県済生会は10月6日、「医療と福祉でつなぐ地域の笑顔と済生会」をテーマに済生会フェアを5年ぶりに宇都宮病院で開催しました。午前10時に野間重孝院長が開会挨拶、病院ロビーには済生会の役割を住民により一層知ってもらうため、本会の歴史や生活困窮者などを支援する活動が展示されました。

この日は子どもからお年寄りまで、幅広い世代が楽しめるイベントが盛りだくさん。

病院まるごと体験では病院の検査室や手術室などを巡る「院内探検ツアー」、薬剤師になりきって調剤体験するコーナー、救急車やドクターカーの見学など、親子で楽しんでいました。

体脂肪や骨密度などの無料測定には多くの大人が参加していました。

盲導犬との歩行体験や里親の普及啓発コーナー、福祉や育児介護の相談にも多くの人が足を運んでいました。屋外ステージでは地元高校生や大学生が合唱やダンスを披露しました。

記念講演会では済生会の炭谷茂理事長が「誰一人取り残さないインクルーシブ社会を目指して」と題し、障害者など困っている人に対し自治体・企業・住民等と一緒に社会の最終ラインを守っていくと訴えました。

**5年ぶりに
済生会フェア**

**親子で楽しめる
病院まるごと体験**

宇都宮病院耳鼻咽喉科主任診療科長の新田清一医師は「難聴」をテーマに正しく補聴器を使用し脳のトレーニングできこえを取り戻す宇都宮方式の難聴リハビリテーションを解説。他にも株式会社サリパテック代表の砂村真琴氏による唾液のがんリスク検査や宇都宮病院副院長の岩部昌平医師による口コモ（運動機能）チャレンジの講演も行なわれました。

（栃木・宇都宮病院
済生記者 川原彩花）



Text: みやじまなおみ
 Photos: 吉川信之
 Hair & Make-up: やすす
 Styling: 武久真理江

おかだ・ゆい 2000年生まれ、大阪府出身。幼少期からジュニアモデルとして活躍し、17歳のときに映画で俳優デビュー。2021年NHK連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」へ出演を果たし、ドラマ「わたしのおじさん〜WATAOJI〜」「女子高生の無駄づかい」「江戸モアゼル〜令和で恋、いたしんす。〜」「最果てから、徒歩5分」などで主演を務める。バラエティ番組や情報番組への出演も多く、現在「news おかえり」「Finder TRIP」含め4本のレギュラー番組に出演中。



©ヨンキ/LINE Digital Frontier・2024映画「他人は地獄だ」製作委員会

映画『他人は地獄だ』

地方から上京したユウが、得体のしれない入居者たちが暮らすシェアハウス「方舟」に入居したことをきっかけに、不可解な出来事が発生していくサスペンスホラー。入居した翌日、一人の住人が消え、言い知れぬ不安を感じるユウ。やがて入居者たちの不気味な行動や会話からある疑惑が思い浮かぶ。はたして入居者たちの正体とは？ユウはこの地獄のような場所から抜け出すことはできるのか？

■原作:『他人は地獄だ』ヨンキ(「LINEマンガ」連載) ■監督・脚本:児玉和土
 ■出演:八村倫太郎、柳俊太郎、岡田結実、三浦健人、青木さやか、大倉空人、萩原聖人ほか

11月15日(金)よりグランドシネマサンシャイン 池袋、イオンシネマほか全国公開

”俯瞰の目“と”瞬発力“で演じたヒロイン役

「怖いけど、もう一度観たくなる映画です」

女優業とバラエティは一見かけ離れているようで、活かしあえる点があると岡田さん。「お芝居では『俯瞰の目』を教わりました。たとえば自分の役に集中しすぎると演技が暴走し、人のお芝居を壊すことがあります。でも、自分以外に意識を持てるとはかの役者さんと面白い化学

反応を起こせる。バラエティでも自分がガンガン前に出て行くだけでなく、押し引きができるようになったと思います」
 一方のバラエティで学んだのは「瞬発力」。「バラエティは筋書きがあってもほぼアドリブ合戦。そこを鍛えてもらったおかげで、お芝居で急にアドリブを

要求されてもサッと返せるようになりました(笑)」。それが映画『他人は地獄だ』にも活かされているという。見どころは？
 「得体のしれない恐怖に引き込まれ、終盤までゾクゾクが止まりませんが、最後に衝撃的な展開が待っています。物語の細部がわかることで、怖いけどもう一度最初から観てみたくなる映画です」
 描かれているのは、他人のせいで負のループに陥り、判断能力を失っていく人間の弱さと怖さ。「そうかといって他人と関わらずに生きていくことはできません。だからこそ、そばにいて最終的に助けられる人が必要。みなさん自分だったら、と考えるながら観ていただけたらと思います」

岡田結実



Yui Okada

女優としてだけでなく、バラエティや情報番組でも活躍中の岡田結実さん。まったく違うジャンルを行き来するなかで得た経験の活かし方について聞きました。
 今秋公開のサスペンスホラー映画では母性愛あふれるヒロイン役に。演じた感想や作品の見どころについてもお話しいただきました。

衣装協力:
 BORDERS at BALCONY
 SHUN OKUBO



Vol. 174



口福につぼん

吉井省一

アンの料理人を務めてきたオーナーパティシエが、勤め先だった店の料理長が作ったティラミスに衝撃を受け、ついにティラミス専門店を出店するまでに。それまで食べた個々の味が主張し合うものとはまったく違う、一体感がある絶妙な味わいだったとのこと。



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

ティラミスに魅せられたイタリアンシェフが考案

見た目も華麗な「シルキーティラミス」を作っているのは、さいたま市のティラミス専門店「アークイラ」。20年以上イタリ



計算し尽くされた上質な甘さと滑らかな口当たりが魅力の「シルキーティラミス」は、商標登録されたオリジナルなネーミング。保存料や添加物を使わず、厳選された素材の味が生かされている

のスイーツとの出会いが料理人人生をここま

86 シルキーティラミス オリジナル

《Aquila》埼玉県 さいたま市

で変えてしまうと、どれほど画期的な味だったのでしょうか。試行錯誤の末に辿り着いた自信作「シルキーティラミス」は、

評価も高く、某経済新聞では「自分を元気にするごほうび大人のティラミス10選」に選ばれ、テレビや雑誌でも広く取り上げられています。

保存料無添加ですべて手作り。急速冷凍してもお店の味を損なうことがないように、水分量までしっかり調整されています。使っている素材も、北海道根釧地区で生産されたマスカルポーネチーズ、青森県で飼育された赤鶏の卵など、とことんこだわったものばかりです。もちろん、外部からの

ふだん街で見かけるティラミスは、どちらかというとシンプルなものが多いのですが、こちらは箱を開くと、もしもギフトでもらったら思わず笑みがこぼれてしまうほど、上品にデコレートされています。ここ、スイーツ好きには重要なポイントですよ。



オーナーパティシエの齋藤彰さん。ティラミスの魅力を伝えるために日々奮闘している

滑らかな舌ざわりと豊かな旨みにうっとり

さらに、解凍する時間に応じて異なる食感・味わいが楽しめるのも特徴のひとつ。1〜2時間のほぼ冷凍状態だとアイスクリーム感覚で、3〜4時間の半解凍ですっきりとした食感に変わり、5時間以上解凍すると本来



完成度の高いシルエットが、新たなティラミスの世界へと招く



色鮮やかな「ストロベリーティラミス」や贅沢感漂う「プレミアムティラミス」も人気

のティラミスの滑らかな食感が楽しめます。くれぐれも解凍は常温ではなく、冷蔵庫で行なってください。私は冷凍・半解凍それぞれの食感を十分楽しんだ後で、完全解凍した「シルキー

ティラミス」へ。まず、ひとさじスプーンにのせて。ふんわり柔らかくて「シルキー」という名にふさわしいしっとり滑らかな口当たり。その後で、甘く誘いかけるラム酒



メニューボードにスイーツ心が騒ぐ

やコーヒーの香りが口いっぱいに広がります。クリーミーさが際立ち、食べるカフェラテ、という感じ。選び抜かれた素材の良さを実感できる瞬間です。表面を焼いてバターでコーティングしたタルトもサクサクの歯応え。表面を覆っているのはココアパウダーではなく、上質な甘さのチョコレイト。下層のスポンジ部分もソースがたっぷり染み込んでいてこれまた絶品。シルキーな食感なのに、ため息が出るほどコクと旨みが濃厚。上品な余韻が残って、食べてすぐなのに再びオーダーしたくなってしまいう美味しさでした。お洒落なイタリア映画のワンシーンにぴったりの「シルキーティラミス」。エスプレッソなどお気に入りのドリンクとともに堪能したい極上スイーツです。



シルキーティラミス オリジナル
3,290円(税込・送料込) 消費期限……製造日より冷凍3カ月(解凍後冷蔵2日)
お取り寄せ・お問い合わせは
ティラミス専門店 Aquila (アークイラ)
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-7-102
TEL: 048-678-5984
ホームページ: <https://shop.aquila-sweets.jp/>

笑顔をお届けする ピエロくん

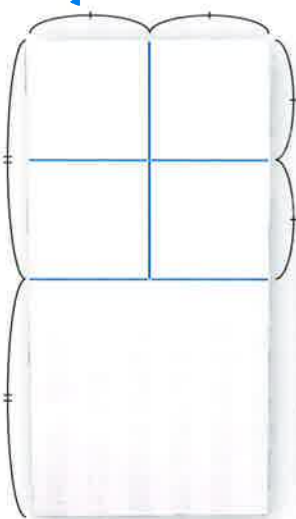


顔

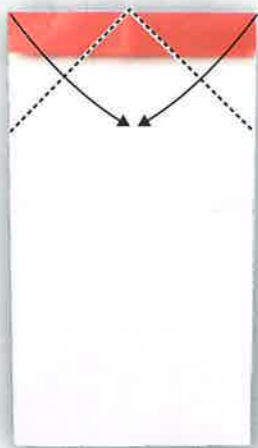
1 1/2に切った折り紙に図のように折り目をつける



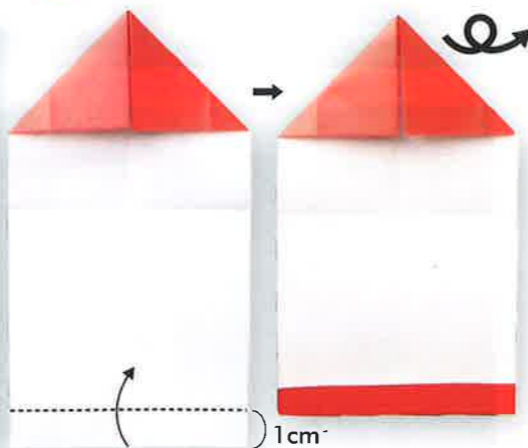
2 上の辺を図のように折る



3 上の角を中心に合わせて折る

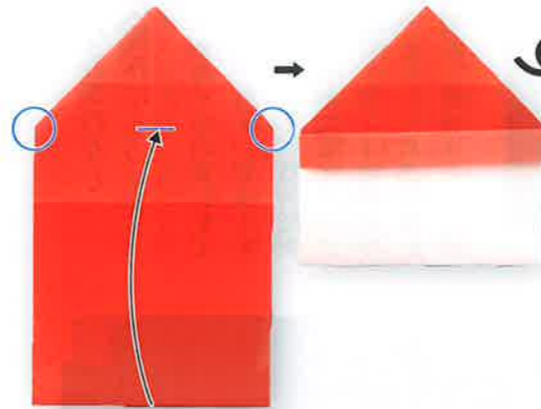


4 下の辺を1cm折り上げて、裏返す

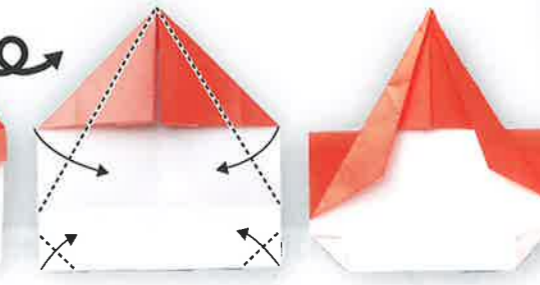


--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

5 上の三角の底辺まで折って裏返す



6 図のように点線で折って裏返す



7 丸シールなどで髪の毛や顔を完成させる

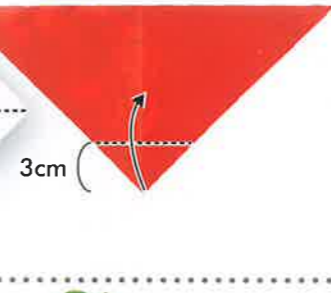


体

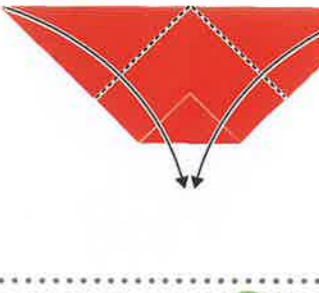
1 折り目をつけて、三角に折る



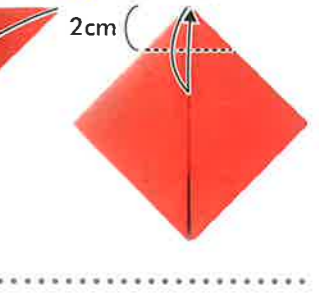
2 下の角を3cm折り上げる



3 左右の角を中心に合わせて折る



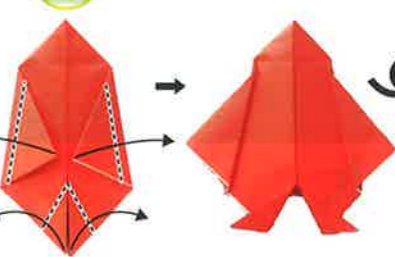
4 上の角から2cmの折り目をつける



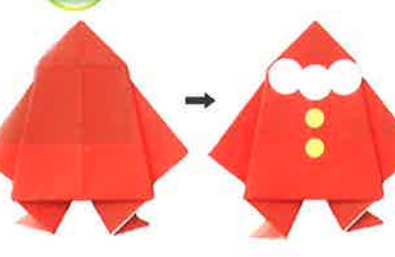
5 折り目から図のように中心に折る



6 図のように折り返し、裏返す

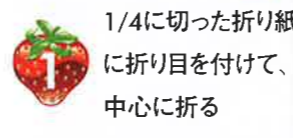


7 丸シールなどで服を飾る

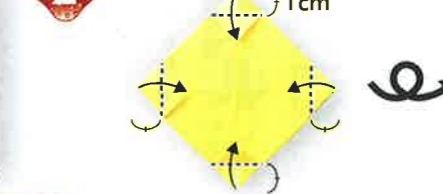


ボール

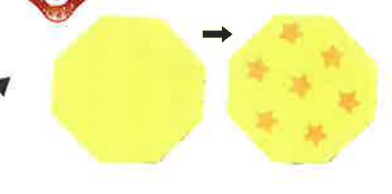
1 1/4に切った折り紙に折り目をつけて、中心に折る



2 四つの角を1cm折って、裏返す



3 模様を描く



組み方

顔と体を組み合わせて完成



新作のプレゼントがあります!



詳しくは83ページを見てね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える!決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図:いまいみさ おりがみ協力:株式会社トーヨー



〈北海道〉小樽病院内保育所なでしこキッズクラブ。13人の子ども達が仮装して、一早いハロウィーンを楽しみました。詳細は93ページをご覧ください。

topics



小学生が自由な発想で描く “理想の病院”

〈群馬〉前橋病院

9月9日、10月31日の期間、外来フロアに子どもたちが描いた「理想の病院」の絵画を400点近く展示しています。当院では毎年地元の小学校の小学生に、夏休みの自由課題の一つとして「あったらいいな！こんな病院」をテーマに

した絵画制作を加えていただいています。テーマパークのような病院、ロボットがいる病院など、中にはクスッと笑ってしまうような、ほほ笑ましい作品の数々。今年も、小学生らしい自由な発想で描かれた絵画がフロアに華やかな彩りと癒やしを与えてくれています。すべての作品の中から病院賞4点、なでしこ賞32点を選出。病院賞の絵画は当院広報誌「es」にも掲載しています。

（済生記者 川上佳代）

★ワクワクするような絵がたくさんで、これなら病院が苦手な人も怖くないかもですね。

（本部広報課 杉山菜央）

〈三重〉松阪総合病院 いのちのエンジニア体験

9月22日、三重県総合博物館で三重県臨床工学会主催の臨床工学会「いのちのエンジニア」体験イベントが行なわれ、子どもたちを中心に約600人が来場しました。当院からは筆者（同技師会会長）と青拓海技士が参加。子どもたちと積極的に交流しました。

臨床工学会の知名度向上と

〈東京〉中央病院

LGBTQの正しい知識を学ぶ

今年5月に東京都人権部によるパートナーシップ宣誓制度に

関するヒアリングが行なわれたことを契機に、9月19日、社会貢献推進委員会主催でLGBT

次世代の人材確保を目的としたこのイベントは、三重県では初開催。手術室、集中治療室、透析室を再現したブースでは、実際の医療機器を操作して業務内容を説明しました。

参加者からは「実際に機械を操作できて楽しかった」など、うれしい感想がありました。会場は活気に満ちあふれ、テレビでも取り上げられるなど、大盛況のうちに幕を閉じました。

（臨床工学課 九鬼弘和）



Q研修を開催しました。

当日は、認定NPO法人REBILの中島潤事務局長を講師に招き、対面で43人、オンラインで83人以上が参加。LGBTQ・SOGIに関する基礎知識をはじめ、他医療機関の取り組みなどを学びました。

講義の中では、LGBTQの

方の66%が医療現場で困難を経験している現状や、その結果、トランスジェンダーの方の約40%が体調不良になっても医療機関にいかれなくなっているとの情報がありました。

医療現場で働く一人ひとりが正しい知識を持って対応することが必要であると痛感しました。

（社会貢献推進委員会 委員長 町田洋治／委員 済生記者 鈴木香純）

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

フォーラムで医工連携推進医療福祉機器開発に挑戦

8月22日、「医工連携フォーラム」飯塚を会場（のがみプレゼンテントホテル）とYouTubeのLIVE配信とのハイブリッド方式で開催しました。

当院では2015年からイノベーション推進グループを立ち上げ、行政や近隣の飯塚病院、九州工業大学などと医工連携に取り組んでいます。フォーラムは医療現場での困りごとを抽出し、製販・ものづくり企業につなげて医療の安全や質の向上、まちづくりに貢献する目的で行



医療福祉機器開発に挑戦する～

なっています。

当日は基調講演の後、飯塚病院、飯塚市立病院、当院によるトークセッションを実施。当院からは三石敬之副院長と春口勇介経営企画室長が登場し、3病院間で活発な意見交換を行ないました。地域の三つの基幹病院が連携し、さらに企業と一緒に取り組むことは全国的にも珍しいことです。

（済生記者 松岡亜希）

祝200回！地域住民向け健康講座

山口総合病院

平成11年から開始した健康講座は、10月17日に記念すべき第200回を迎えました。

この日のテーマは「腎臓病ってなに？」。地域の皆さんや院内の患者さん32人に対し、今井剛副院長が腎臓病と透析予防について分かりやすく解説しました。中には150回以上参加している人もいて、質問も多く大盛況に終わることができました。

次回の健康講座は脳外科医師による「くも膜下出血について」



＜三重＞ 明和病院
 他部署の仕事を知る機会に
 当院では毎月第4月曜日に、事務部職員のレベルアップを目的に事務部ワーキングセミナーを開催しています。その活動の一つとして、希望者を募り医事課体験会を実施しています。

この体験会を実施するに至ったのは、他部署の業務を理解するためです。自分の頭の中に入れる「知る」を第一ステップとして、自分の頭で理解する「分かる」に変えることで、人事異動の不安を少しでも取り除けると考えました。

8～10月で3回実施し、医事課を経験したことがない職員3人が参加（うち1人は筆者）。窓口対応や入院対応など医事課を知るいい機会になりました。



また、この活動は三重県済生会主催の済生会フォーラムで発表します。（済生記者 藤岡拓人）

香川県済生会病院

医療従事者になりたい！現場を見て気持ちが増した

7月23日、学校法人穴吹学園と共催で、県内公立高校在学生を対象に病院見学会を開催しました。当日は普通寺第一高等学校と丸亀城西高等学校の3年生18人が参加しました。

はじめに若林久院長が、一人の患者さんに対して多くの職員が関わって命をつないでいく



チーム医療の大切さを伝えました。その後、広報委員会スタッフが各部門を案内し、仕事内容や役割を説明。職種ごとの個別相談会では、目指す職業のブラスで先輩たちに仕事内容ややりがいについて熱心に質問する様子が見られました。

参加者からは「普段見ることができない現場を見ることができて良かった」「なりたいたいという気持ちが強くなった」などの感想を聞くことができました。（総務・経理課 西山汐里）



（神奈川）湘南平塚病院

質の高い除草作業に感激！

9月24日、平塚市にある進和学園しんわルネッサンス（就労継続支援事業）に依頼し、当院敷地内駐車場の除草作業を行いました。

除草作業はこれまで職員がボランティアで行なってきましたが、猛暑の今年は実施が難しく、草は1メートル以上生い茂ってしまいました。当日は、進和学園の利用者さんと支援員の8人が参加。草刈り機を使用し、2時間足らずで集まった草は20袋以上に。駐車場はすっかりきれいになりました。

進和学園とは、定期的に手作

りパンの訪問販売に来ていたなど、10年以上前から深い交流を続けてきました。今回の依頼にはソーシャルインクルージョンの観点もありますが、質の高い作業に職員一同大満足。今後も継続的に作業を依頼する予定です。（主任医療ソーシャルワーカー 若林いずみ）

愛知県青い鳥医療療育センター

和太鼓の音色と響きを堪能

コロナ禍の影響で中止になった青い鳥夏まつりの代替行事として、9月22日、昨年に引き続き地域の火消し太鼓の皆さんに演奏しに来てもらいました。

最初に「ドン」と太鼓の音が響くと、驚いて泣き出したり、固まってしまったりする子も。反対に、目を輝かせてじっと見つめる子、前に飛び出して元気よく踊り出す子もいました。さらに、太鼓をたたくように手を動かしたり、あまり笑顔を見せることのない子が笑い続けたり、普段は耳にすることのない音がとても良い刺激となったようです。



総勢150人の利用者さんが参加し、太鼓の響きや笛の音色を堪能しました。太鼓の音色に加え、体全体を使うダイナミックな動きも魅力的で、皆さんはすっかり魅了された様子でした。（済生記者 田口幸子）

福井県済生会病院
地域の美容従事者対象に
アピアランスケア講演会

8月26日、美容従事者アピアランスケア講演会を福井県美容会館で開催し、地域の美容従事者20人が参加しました。
厚生労働省「令和6年度アピアランス支援モデル事業」の対象病院に採択された当院では、医療従事者や地域の理美容関係



者と協力し、がん患者の外見ケアに関する確かな情報発信やアピアランスケア普及に努めています。

当日は美容ジャーナリストの山崎多賀子さんががん患者の立場から講演し、当院の中川敦子がん化学療法看護認定看護師が当院の取り組みを紹介。さらに、福井県からは補整用具購入に関する補助制度の説明がありました。

参加者からは「医療従事者と美容従事者が手を取り合い、一人でも多くのがんで苦しむ人を救っていききたい」との声が聞かれました。

(済生記者 田中一弥)

〔福岡〕二日市病院

被災したらどうする？
職員向け災害研修会

10月11日、職員対象の災害研修会を開催し、44人が参加しました。

当日は、〔福岡〕老健大牟田ライフケア院の内田正秋事務長が「熊本地震の経験を通して、災害への準備・対策」をテーマに講演。国立病院機構熊本医療センターに在任時に被災した経



験談などを交えて話していただきました。

災害関連の業務を行なう筆者が想定していたよりもさまざまなことが起こることが分かり、また講演の最後での内田事務長の「私自身も被災者だった」という言葉のとおり、自分や職員が被災したときのことも考えなくてはいけないと気づかされました。

(済生記者 久富大史)

〔和歌山〕特養潮光園

スムーズな消火活動と
避難誘導ができるように

9月18日、湯浅広川消防本部の協力のもとで防火訓練を行いました。利用者さん約30人が参加しました。

訓練では1階からの出火を想



定。午後1時30分に火災警報器が鳴り響くと、自衛消防の担当職員6人がそれぞれの役割に従って火元確認と避難誘導に走り回ります。利用者さんは職員の誘導により、車椅子で非常口へ。約10分で避難を完了しました。



その後、第二部として職員らによる消火器使用訓練、煙体験訓練、さらに散水栓からの散水訓練を実施。煙に包まれたテントの中を避難する煙体験訓練では、改めて煙の怖さを実感しました。

学術集会で職員2人が優秀演題賞受賞

9月7日、鳥取市のとりぎん文化会館で開催された第20回日本医療マネジメント学会鳥取支部学術集会において、当院職員2人が優秀演題賞を受賞しました。

最後に、浦崎弘之施設長から「実際の火災発生時にも消火活動と避難誘導がスムーズにできるように心がけてください」と訓示がありました。防災に対する意識を高めた1日でした。

(済生記者 山崎良彦)

〔鳥取〕境港総合病院

来年度の学術集会は当院が担当病院となります。次回世話人の岡野淳一地域医療総合支援センター長が挨拶を行いました。

(済生記者 亀尾美子)

岡山療養センター
音楽で患者さんに笑顔

9月26日、「院内 Autumn コンサート」を病棟内で開催しました。

自動車に関係する交通事故により脳を損傷し、重度の後遺障害を負った患者さんの五感を刺激するため、音楽療法支援員をはじめとする多職種の職員と患者さんがピアノ、フルート、シンバルなどの楽器演奏や歌声を披露しました。

参加者は約50人。患者さんの

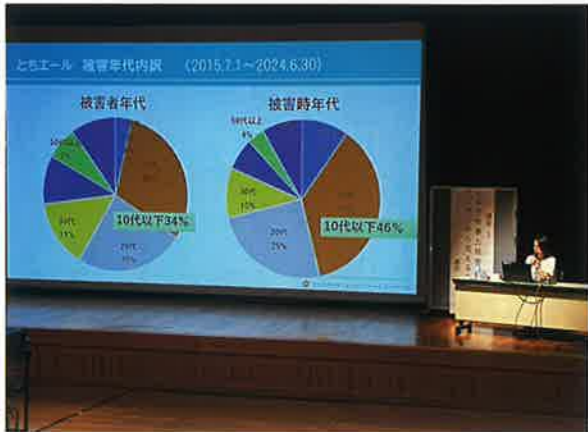


左から理学療法士、医師、診療放射線技師、音楽療法支援員、薬剤師

リクエストをもとに「マリゴールド」(あいみょん)や「One Love」(嵐)、季節の唱歌など5曲を演奏。病棟全体が心地よい音楽に包まれ、患者さんと職員で楽しい時間を過ごしました。

(済生記者 中島由加里)

topics



性暴力を考える講演会

〈栃木〉宇都宮病院



9月3日、認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ主催の「性暴力を考える講座」が宇都宮市のパルティホールで開催され、医療関係者や各事業所の相談員、養護教諭など83人が参加しました。

第一部では、桜みらい法律事務所の上谷さくら弁護士が不同意性交等罪について講演。第二部では、当院の稲見一美地域連携課長（MSW）が講師を務め、「とちぎ性暴力被害者サポートセンター」から見える性暴力」と

未来を支える人材育成を！学生メデイカルラリー復活

〈大阪〉千里病院



9月21日、吹田市の大和大学で第1回近畿学生メデイカルラリーが開催されました。当院は企画・運営に関わり、コアスタッフとして職員12人を派遣しました。

当院では、過去に千里学生メデイカルラリーを主催していましたが、単独での運営継続が困難になり2017年をもって中断。しかし、過去の参加者からの「ラリーがきっかけで救急医学の道に進んだ」「ラリー仲間とのつながりが今の仕事に生きている」などの声を受け、改めて有志を募り、今回の開催に

新潟大医学生を迎えて地域医療の重要性伝える

〈新潟〉三条病院

8月20日から3日間、当院で医学生生の「早期医学体験実習」が行なわれ、新潟大学医学部の1年生2人が、地域医療やプライマリケア等の実情を学びました。

1日目は看護部やその他部署を巡り、現場やチーム医療について学んだ後、隣接の老健や特養を見学しました。2日目は坂内均院長の下、高齢者を中心とした内科外来診療を実習。3日目は訪問看護師に同行し、寝たきりの患者さんへの吸引処置などを見学しました。

医療と福祉の現場を目の当た

めっちゃ楽しかった！中学生が医療の仕事体験

長崎病院



8月28日、当院では今年も小島中学校の生徒を受け入れ、2年生1人が職場体験のため来院。医療安全管理部、感染制御部、

至りました。

全国から集まった学生競技者は110人。さまざまな救急模擬現場で迅速かつ的確な判断や対処ができるかを競い合いました。当日の様子は当院公式インスタグラムに掲載しています。

〈看護部 吉本美紀〉



りにした当院での実習が、地域医療の役割や重要性を学ぶきっかけとなり、この地域を支える医師となって戻ってきてくれることを期待しています。

〈済生記者 樋口拓也〉

参加型の出前講座で体操やチェアヨガを紹介

〈静岡〉特養小鹿苑

9月5日、近隣地域の地域ミニデイサービス（S型デイサービス）から依頼を受け、「自宅でもできる健康体操」の出前講座を開催しました。当苑から機能訓練士と介護職員の2人が出向き、地域の方7人が参加しま



した。

フレイル予防を目的に、まず機能訓練士が自宅でのスキマ時間やながら、時間で行なえる簡単な体操やストレッチを、実践を交えて紹介。次に、介護職員による「チェアヨガ」を参加者と行ないました。講師を務めた介護職員はチェアヨガインストラクターの資格を持っており、椅子を使って気軽にできるヨガの楽しさや魅力を伝えました。

参加型の講座は好評で、「定期的にお願したい」とありがたいお言葉をいただきました。

〈地域貢献委員会 狩野 陽〉



病棟を見学し、手術室や臨床工学室で医療の仕事体験しました。

病棟では、患者さんの髭剃り介助をする看護師の姿に感銘を受け、熱心にメモをとり質問を重ねている様子も見られました。手術室では、手術時の手洗いやガウンの着替え方を教わった後、実際にガウンに着替えて、少し照れながら記念撮影。すぐそばを手術前のドクターが笑顔で通り過ぎていきました。

体験を終えた生徒は「知らないことをたくさん知ることができて、めっちゃ楽しかったです。いろいろな職種を体験できて将来の選択肢が広がりました」とうれしそうに話してくれました。

〈総務課 大川七海〉

〈愛媛〉西条老健いしづち苑
だんじりでお敬老のお祝い

敬老の日の前日にあたる9月15日、入所者さんのお祝いに、昨年に続いて地元のだんじりが来てくれました。今年も恒例の「玉津」「市塚」に加え「横黒」も晴天の中、3屋台の豪華絢爛だんじりの登場です。

25人ほどが鑑賞する中、担ぎ手の「ヨイトサー」の音が青空に響き、太鼓の振動が胸に響き渡ります。この日を待ちに待っていた入所者さんは、太鼓と鐘



〈山形〉特養愛日荘
花火で元気をチャージ

8月28日、恒例の納涼花火会を開催しました。感染症対策のため参加者を制限した中での催しとなりましたが、長引く残暑を元気に乗り切っていたからこそ、例年より華やかに実施しました。

吹き出し花火や打ち上げ花火の音や香りを感じ、きれいな明かりに頬を染めて「わく」と歓



に合わせて手拍子でリズムをとっていました。子どもたちによる「西条祭りばやし」といわれる伊勢音頭の披露もあり、一緒に口ずさむ人もいました。

入所者さんの顔を見ると笑顔いっぱい！涙を流す人もいました。その姿を見ることができた職員にとっても、喜びと活気に満ちた一日となりました。

（事務主任 大仲佳奈子）

〈静岡〉特養小鹿なでしこ苑
職員研修会に各地から95人

9月27日に茨城県内のホテルで行なわれた第17回済生会関東北信越地区職員研修会に参加しました。

（事務主任 大仲佳奈子）

今回は各地から済生会の職員が約95人集まりました。中止となった時期もありましたが、今回で20年という歴史ある研修会です。

さまざまな部会がある中、筆者は介護部会に参加しました。議題で盛り上がったのが、ある施設が紹介した「見守り機器」について。臥床時の睡眠の様子に分かり、離床時には出勤している全職員に知らせがいくという魅力的なものでした。

また、研修後の懇親会では各施設での防災対策が話題に上がり、参考になりました。済生会のスケールメリットを強く感じる研修となりました。

（済生記者 石田遼祐）

25人程度は屋外に出て、約30人は居室から窓越しに鑑賞。声を上げる入居者さんたち。手持ち花火ができなくて少し物足りない様子もありましたが、「久しぶりに花火見て、きれいだった」と皆さん大変喜んでいました。

も「やっぱり花火は外で見た方がいいな」というのが正直なところ。改めて五感で感じる大切さを感じました。

（介護職員 矢口美代子）

〈富山〉なでしこ保育園

交通安全市民大会で
年長児が交通安全のお約束

9月19日、富山市のオーバード・ホールで開催された「秋の交通安全富山市民大会」に当園の年長児24人が参加しました。大会ではアトラクションとして法被を着て鳴子を持った子ど

滋賀県済生会訪問看護
ステーション
ふれあい健康フェスタで
訪問看護をPR

10月6日、守山市民病院で開催されたふれあい健康フェスタに「在宅看護を体験してみよう」をテーマにしたブースを出展しました。当日

は226人が来場し、そのうち70人が当ブースを訪れました。

エアーマット、電動リフト、昇降椅子など訪問看護で使用する機器を展示し、来場者には実際に体験してもらいました。展示品に興味を持った方や、今後の家族介護への不安を話す方に対して、在宅介護や訪

問看護の説明をしました。子連れの家族は電動リフトを体験し「大きいお父さんでも持ち上がった！」「歳をとったらこれ使おうな」など驚き、笑い起こる場面も。スタッフも楽しみなが地域の皆さんと触れ合えました。

（看護係長 村口貴美子）



交通安全富山市民大会

〔東京〕 向島病院
自衛消防隊が躍動！
審査会で迅速な消火披露

8月7日、向島消防署の審査官4人の立ち会いのもと、自衛消防訓練審査会を実施しました。コロナ禍以前は、近隣の学校の校庭や商業施設の駐車場など、広い会場に集合し消防署が用意した消火設備を用いて審査会が行なわれていましたが、現在は消防署の審査官が各事業所を訪問し、各事業所の消火設備を用



いて行なわれています。

当日は院長や防災対策委員の面々が見守る中、当院の自衛消防隊2組（4人）がそれぞれ元気に、迅速に消火活動を披露。結果は最優秀賞、優秀賞、優良賞とランク付けされます。今回は惜しくも（!?）最優秀賞を逃がし、優良賞に終わりましたが、今後も自衛消防技術の向上に努め、日々の防災業務に取り組んでいきます。

（済生記者 加藤建志）

〔大阪〕 吹田特養松風園
マンツーマンで
スマホの使い方を伝授

吹田市東地区福祉委員会は9月5日、同区在住の高齢者を対象に「スマホ相談会」を開催し、講師として当園の吉岡康史介護支援専門員と河合由起子介護支援専門員が参加しました。

相談会のテーマは「スマートフォンの使い方」です。「企業主催のスマホ教室は説明が速く理解できない。参加者のベイスに合わせてほしい」との要望があったため、参加者13人に対し施設職員や大学生がマンツーマンで使い方をアドバイス。写



真撮影など基本的なことから、Wi-Fi設定、アプリインストール、LINEの使い方まで、参加者自身でスマホを操作しながら理解を深めてもらいました。操作を覚えた人は、その場でお孫さんとやり取りして大喜び。身近にスマホを覚えてくれる人がいない高齢者にとって、とても有意義な時間となりました。

（済生記者 松崎智子）

〔埼玉〕 鴻巣病院
アルコール関連問題連絡会
4年ぶりの対面開催

7月25日、コロナ禍により延期やオンラインで実施すること

問い合わせもいただき、地域連携の必要性をあらためて感じる機会となりました。

（済生記者 田島利恵子）

〔埼玉〕 川口総合病院
院内の多彩な成果を知る

8月29日に成果報告会を開催し、臨床検査科、臨床工学科、看護部、腎臓内科、泌尿器科、人事・総務課の6人の職員が発表を行ないました。発表内容は、昨年度の活動（行動計画・改善活動・研究など）から生まれた部署成果について。



タスクシフト、デジタル化によるシステム構築、患者意思決定支援、新規事業など多岐にわたり、どれも大変興味深いものでした。

選考の結果、臨床工学科・原口博明さんの「ME機器管理システムの構築〜機器保有台数の適正化に向けて〜」、腎臓内科・杉浦尚子医長の「腹膜透析の導入について」、人事・総務課・鈴木翔真さんの「医師の働き方改革への対応について」の3演題が優秀賞に選ばれ、表彰されました。

（経営企画課 大庄司義明）

〔千葉〕 習志野病院
首都直下地震を想定し
4都県で医療活動訓練

9月27・28日、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練が行なわれ、当院から救急科医師、DMAT隊員、災害対策チームメンバーが参加しました。

4都県で実施された訓練は「9月27日11時、首都直下地震が発生、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県において最大震度7を観測する地震の発生」という状況を想定して行なわれました。

が多かった「埼玉アルコール関連問題連絡会」を、4年ぶりに当院にて対面で開催しました。同連絡会は、埼玉県内の医療機関や行政機関、支援機関等の関係機関が集まり、アルコール問題に関わる事例検討や情報交換を目的としています。平日夜の開催にもかかわらず、参加者は当院スタッフを含め100人近くになりました。

今回のテーマは「身体科と精



神科の連携について」。当院からは治療プログラムの紹介と現状報告を行いました。また、關神一院長の講演には、多くの人が熱心に耳を傾けていました。多くの身体科医療機関からの



当院では28日に防災翌日の想定で訓練を開始。地域災害拠点病院としての機能維持のため、本部活動と被災状況把握を行ないつつ、多くの負傷者等の受け入れ、搬送の優先順位を決定。支援DMATへの搬送依頼につなげることができました。

一方で、課題抽出やBCPに沿った本部立ち上げとの整合性の確認など、今後の体制整備、見直しに向けて有意義な訓練となりました。

（人事課 佐藤昌明）



「心待ちにしています」
地域住民向け勉強会再開

8月21日、地域住民や医療福

〈和歌山〉有田病院

この取り組みは、医療や看護の知識や技術を共有し、院内内外で開催し、14人の参加がありました。この取り組みは、医療や看護の多職種連携を図るために平成24年から実施しています。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からしばらく活動を休止していましたが、今回、4年ぶりに再開しました。当日は、当院の杉山智子摂食・嚥下障害看護認定看護師が講師を務め、「認知症と食支援」をテーマに講義を行いました。参加者からは「再開を心待

どの人が治る病気となっていること、その一方で世界では現在も流行している地域もあることなどが伝えられました。皆さん大変興味深く講演に聞

き入っており、結核に関する知識や予防への意識が高まったように感じました。
(済生記者 松岡亜希)

「移動する診療室」医療Maas見学会

〈鹿児島〉川内病院

一般社団法人鹿児島地域医療介護ネットワークによる医療



Maasの見学会が10月3日、当院で開催され、約20人の職員が参加しました。医療Maasとは、生体情報モニターやオンライン診療用端末などの医療機器を搭載した巡回診療車両。薩摩川内市が推進する「マルチ医療DX事業」の一翼を担い、「移動する診療室」として、離島や中山間地域など遠隔地での活躍が期待されています。

見学会に参加した医師や看護師からは、担当者の説明に熱心に耳を傾け、車内の設備や想定される使用シーンなどについて、積極的に質問していました。この医療Maasは県内では初導入。まずは当市、甌島での年内運用開始が予定されており、当院産婦人科・小児科・皮膚科の医師も活動に参加することが決まっています。
(済生記者 竹之内美和)

ご家族も一緒に敬老会

9月15日、当園入所部で敬老

〈大阪〉吹田特養松風園



会を開催しました。コロナ禍が明けた今年は5年ぶりにご家族にも参加していただき、一緒にお祝いをしました。表彰者は、長寿と米寿合わせで10人。記念品を贈呈され涙する入居者さんもいました。ご家族といつもよりゆっくと話すことができた皆さんは笑顔にあふれ、温かい雰囲気となりました。食事は祝い膳で、いつも食欲のない入居者さんが真っ先に海老をつまんでパクリ。自分で選んだケーキもおいしそうに召し上がっていました。
(済生記者 松崎智子)

産科インスタグラム開設！

新潟病院

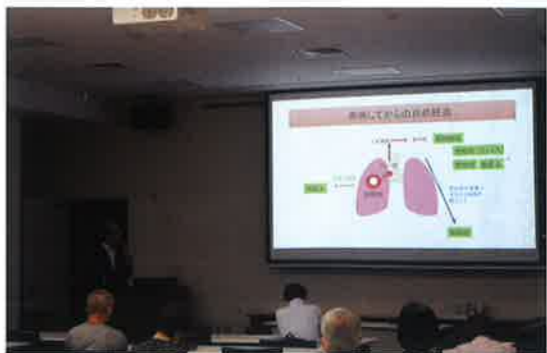
10月から当院産婦人科のインスタグラムを始めました。分娩件数を維持、増加させるために何ができるかを考えた結果、利用者の多いSNSに着目。その中からSNSの特性を生かし、情報共有できるツールとしてインスタグラムに行きつきました。

産科病棟スタッフでSNSチームを結成。分娩室や陣痛室などの施設紹介、マタニティクラスや産後のアロマトリートメントなどの取り組みを定期的に投稿するため活動しています。今後はスタッフ皆でアイデアを出し合い、利用者の目に留まるような記事内容やレイアウトを心がけ楽しく継続していきたいと思っています。
皆さんも是非ご覧ください！フォローと「いいね！」をお待ちしています。
(看護部 津端由香)



古くて新しい病氣「結核」市民医療講座で啓発

〈福岡〉飯塚嘉穂病院



9月7日、飯塚医師会館・講堂で開催された西日本新聞市民医療講座で、当院の高木陽一呼吸器内科主任部長が「古くて新しい病氣「結核」」と題して講演を行いました。この講座は、西日本新聞社が地域貢献活動の一環として行なっているもので約25人の市民が参加しました。講演では、結核菌に感染しても必ずしも発病するわけではないこと、昔は不治の病と恐れられていた結核も、今ではほとん

niigata_saiseikaimatantity

赤ちゃんが産まれたらカンガルーケアをします

niigata_saiseikaimatantity こんにちは😊 済生会新潟病院 産婦人科病棟です👉... 続きを読む

〈大阪〉野江病院
小さなインタビューアール

9月10日、大阪市立すみれ小学校から2年生のインタビューアール19人が来院しました。生活科の授業の一環で、地域で働く人の仕事の内容や地域への思いを探る「町たんけん」を実施しているそうです。



小さな取材陣は地域医療支援センターと薬剤部を訪れ、普段見ることのできない現場を見学。看護師や相談員、薬剤師など5人程度の職員に「どうしてこの職業を選んだのですか？」

「いつから働いているのですか？」など、さまざまな質問を投げかけていました。職員が回答すると用紙にしっかりとメモをとっており、特に職種選択の理由には興味があるようでした。多職種のスタッフが働く姿に

れ、いろいろなことを感じ取ってもらえたらうれしいです。
(副事務部長 金子大記)

〈山形〉はやぶさ保育園
もうすぐハロウィーン！

10月31日のハロウィーンに向け、9月中旬から10月上旬にかけて、全園児108人が関連グッズの製作を行ないました。



2歳児19人は、クレヨンと絵の具ではじき絵をしたり、オバケを作ったりと、さまざまな製作を楽しみました。はじき絵はクレヨンで画用紙に自由に描い

た上から絵の具で染めていくというもので、クレヨンが浮き出る様子に感心する子どもの姿がありました。オバケ作りでは折り紙に挑戦。一人ひとりが上手に折り進めることができました。完成した作品はそれぞれ個性にあふれた素敵な作品ばかり。子どもたちからは「かわいい！」「早くママに見せたい！」などさまざまな声が聞こえてきました。
(済生記者 齋藤里奈)

〈大阪〉野江特養城東園

80人でぎやかな
長寿のお祝い

9月17日に敬老のお祝いを行ないました。

当園には最高齢の103歳、今年度100歳を迎えた1人と合わせて、100歳超の人が4人入居しています(いずれも女性)。

敬老会では、まず今年度100歳を迎える人に、大阪府城東区役所の副区長から内閣総理大臣の名が記された表彰状と記念品(金杯)を贈呈。ちなみに城東区では最高齢は106歳の女性で、今年度44人が100歳を迎えたそうで

す。
続いて園長の祝辞があり、白寿2人、米寿2人、喜寿2人の入居者さんに当園から肌掛布団などの記念品と職員が作成した色紙を贈呈しました。
今年から対象者のご家族にも参加していただいたことで、お祝いの参加者は80人に。ぎやかに入居者さん本人にも大変喜んでいただけるイベントとなりました。
(係長 佃一博)



〈愛媛〉西条特養
勇壮なだんじりに
元気をもらおう

9月15日、敬老の日のお祝いに、地元のだんじり「横黒」「いちづか」「玉津」の3台が、施



設前までやって来ました。施設に3台のだんじりが来るのは、コロナの影響もあって4年ぶり。入居者さんのご家族にも協力いただき、150人以上でだんじりを迎えました。当日は天気にも恵まれ、汗を

かくくらしい暑さの中、入居者さんはだんじりを見たり、太鼓の音や青年団が披露する伊勢音頭を聞いたりしてお祭りの雰囲気存分に味わいました。「すごく良かった」「感動した」と、だんじりと青年団の皆さんにたくさん元気をもらったようです。

3台のだんじりは西条市民が愛してやまない西条祭り(10月12〜17日)で運行予定です。
(済生記者 中野佳弥)



〈山口〉豊浦病院
多彩な催しに3000人会場

10月13・14日、リフレッシュパーク豊浦で開催された「第36回豊浦コスモスマツリ」で、当院が設置した「まちの保健室」

ブースに約3000人が来場しました。
当日は、看護師による健康相談、血圧測定、血管年齢測定、体脂肪測定のほか、子ども向けの企画として手形スタンプ、白衣写真撮影、お菓子や風船の配布を実施。健診推進のチラシやポケットティッシュも配布し、どのコーナーにも行列ができました。

血管年齢測定では80代のご夫婦が若さ対決！奥さんの血管年齢50歳に対しご主人は44歳の結果に、「負けた〜悔しい〜」と周りの人を巻き込んで大盛り上がりでした。
(済生記者 西田千鶴)





福岡総合病院

話題のドラマの医療監修

当院救命救急センターの久城正紀医師は、7月から放送されたドラマ「新宿野戦病院」(フジテレビ)の医療監修と医療指導を担当しました。

久城医師は前職からさまざまなドラマの医療監修・指導に携わっており、2017年に放送された「コードブルー」ドクターヘリ緊急救命」も担当。今回はシナリオ構成の段階から関わり、制作サイドの意図に合



うようシチュエーションや疾患治療、台詞などの案と一緒に考え、改稿を重ねました。「このドラマを通じて、救急医療や病院の世界をいろいろと感じてほしい」と久城医師。福岡からリモートワーク中心の参加でしたが、時間が合うときは撮影現場に向き、俳優やスタッフに医療指導も行なったそうです。(経営企画課 木下昌子)

山口総合病院

脳卒中相談窓口を開設
退院後の困りごとに応える

10月18日から、毎月1回第3金曜日に「脳卒中相談窓口」を開設しています。

当院には脳卒中の患者さんが多く入院しますが、退院後に困りごとが生じた際に、どこに相談してよいか分からないという



状況が多く見受けられました。日本脳卒中学会も相談窓口の設置を推進しており、当院でも設置することになりました。

窓口で対応するのは、脳卒中療養相談士の美麻陽香さん。必要に応じて、脳神経外科医、看護師、理学療養士など、多職種で協働して対応します。(西4階病棟 看護師長 徳本美香)

長崎福祉センター

介護職を目指して
職場体験

9月9日から20日までの2週間、当センターの特養なでしこ



荘とデイサービスなでしこ荘で、島原特別支援学校高等部3年の女子生徒1人が職場体験を行いました。期間中は介護スタッフに付いて、利用者さん一人ひとりの健康管理や日常生活動作の介助方法、コミュニケーションの大切さなどを学びました。

特養では、入居者さんと折り紙をしながらコミュニケーションを取り、敬老会への参加を通して施設行事の雰囲気を感じてもらいました。デイサービスでは、利用者さん宅までの送迎

入浴後の整髪、当センターに週1回来る野菜の移動販売での買い物を手伝ってもらいました。彼女は将来、介護職を目指しているとのこと。利用者さんと一生懸命コミュニケーションを取っている姿がとても印象的でした。(済生記者 川瀬義博・川端誠)

〈奈良〉老健シルバーケア
まほろば

園芸を楽しむ姿に
ご家族も感激

9月21日の世界アルツハイマーデー(認知症の日)にちなんで、今年も、認知症のイメージカラーであるオレンジ色の花を育成する「オレンジガーデニングプロジェクト」(桜井市主催)に参加しました。

5月から利用者さんと一緒に種まきや花苗植えを行ない、水やりや花ガラ摘みをしながら夏を乗り越えました。残念ながら猛暑と高湿で「オレンジ色の花でいっぱい」にはできませんでしたが、施設外周の散歩時に花の成長を楽しむことができました。9月1〜30日には、玄関前口

ビーに花苗植え時の写真をパネル展示。ご家族にも好評で、園芸を楽しむ利用者さんの写真をスマートフォンで撮るなどして、じっくりと見入っていました。認知症月間を知ってもらういい機会になりました。(済生記者 林 嘉夏)

〈広島〉老健はまな荘

利用者さんとの会話で
知らなかったことを知れた

広島県安芸郡坂町が実施する職場体験学習「ようよう・ワーク・ウィーク」の一環で、8月20日から3日間、中学2年の森本そらさん、奥田沙弥歌さん、佐神結愛さんの3人が当荘で介護業務を体験しました。

3人は、デイケアで利用者さんと話をしたり、カレンダーに使う折り紙を折ったりしてくれました。初日は何を話したらいいかわからなかった利用者さんとの会話も、最終日は生徒さんから積極的に話しかけるようになっていました。

体験後は「利用者さんとの会話から、私たちの世代が気付かないようなことを開けて大変勉強になった」と前向きな感想が



ありました。これを機会に一人でも介護の道に進んでくれたらうれしく思います。(済生記者 佐藤 聡)

感動をありがとう！ スポーツ大会で優勝

熊本福祉センター

10月13日、植木中央公園運動施設で熊本県知的障がい者施設



親善スポーツ大会が行なわれ、本大会は熊本県下の施設利用者の皆さんがスポーツの楽しさを体験し、参加者同士の親善を深めるために毎年行なわれています。グラウンドゴルフ、フットベースボール、ペタンクの大会種目のうち、当センターではペタンクに3チームを結成。選手たちは3週間もの期間、各事業所の仕事帰りにコツコツと練習に励みました。

開会式では少し緊張した表情でしたが、仲間の好プレーに笑顔爆笑！ 見事、2チームで優勝を勝ち取ることができました。感動をありがとう。心から拍手を送ります。

(支援員 白石奈美栄)

山口総合病院

外科病棟異動をきっかけに 特定行為研修受講

10月1日、郷良秀典院長、安本昌代看護部長立ち合いのもと、特定行為研修第5期生の入校式を行ないました。



中(仮放免)や入国管理局収容中に医療を必要とする場合、どのように同事業を活用し、医療に結びつけられるかという点も話されました。

当院がある横浜市金沢区には東京出入国在留管理局横浜支局があります。以前、別の入国管理局で収容中にスリランカの方が亡くなる事例があり、外部医療機関との連携が求められています。勉強会は、当院が力になれる可能性を考える良い機会となりました。

(済生会記者 長澤伸哉)

全国済生会整形外科学術研究会

学会翌日は親睦ゴルフ

和歌山で催された「第7回全

筆者は、この4月から外科病棟へ異動し主任となりました。外科病棟は術前から術後までの展開が早く、術後の急変も起こりやすい状況にあります。特定医療行為を行なうことができれば、急変時の迅速な対応、医師への的確な報告、患者の状態観察やケアの改善点等の詳細な把握など、患者のためにより多くのことができるのではないかと



筆者(右)

考え研修受講を志願しました。5期生は集中治療室の田中靖宏さんと筆者の2人。1年後一緒に無事研修修了を迎えられるよう、互いに励まし合いながら頑張っていきたいと思っています。(北6階病棟 主任 横山真優美)

全国済生会肝臓共同研究グループ

幹事会をハイブリッド開催 研究課題の進捗を確認

今年度2回目の全国済生会肝臓共同研究グループ(SLSG)幹事会を、8月31日、大阪市内



を拠点にZoom配信とのハイブリッド形式で開催しました。

国済生会整形外科学術研究会(P58)の翌日、9月15日に海草郡紀美野町のサンリゾートカントリークラブで親睦ゴルフを行ないました。

メンバーは、和歌山病院・川

上守院長、長崎病院・衛藤正雄院長、(北海道)小樽病院・和田卓郎院長、(奈良)御所病院・中山正一郎院長。そして、前日の学術集会で特別講演を務めた和歌山県立医科大学医学部整形外科学講座・山田宏教授も参加しました。

あいにくの雨模様の中でのスタートでしたが、午前中



には雨も上がり絶好のゴルフ日和に。和気あいあいと楽しみながらゴルフの腕を競い合いました。優勝は山田教授でした。(和歌山病院 済生会記者 松元靖寿)

入管局収容中はどうする？ 無低診療の院内勉強会

10月4日、職員を対象に無料低額診療事業の勉強会を開催し、80人が参加しました。

同事業の院内向け研修実施は法律で定められているため、どの病院でも行なわれています。当院でも毎年、医療ソーシャルワーカーが行なっています。

今回の勉強会では、難民申請

当日は、現在進行中の五つの研究課題の進捗状況が述べられ、質疑応答と問題点についての討論が交わされました。

当グループの活動は済生会ホームページにも掲載。今後も全国に展開する病院グループの強みを生かして共同研究を進めていく予定です。

次回の全体会は10月末に神戸での開催を予定。常時新規参加施設を募集していますので、興味がある施設はぜひご連絡ください(肝臓学会所属不問)。



(岡山済生会総合病院 内科主任医長 川上万里)

(神奈川)若草病院

〈山口〉貴船福祉ケアセンター
男性の育休取得推進で
テレビ取材を受けました

10月9日、当センター職員の中島弘登さんが男性の育休取得について、KRY山口放送「さわやかモーニング」の取材を受けました。

当センターでは平成30年初めて男性職員が育休を取得して以降、延べ6人の男性が育休取得。中島さんも今年2月に1カ



月の育休を取得しました。

取材当日は当センターで中島さんの仕事の様子の撮影や上司・先輩を交えてのインタビューなどを実施。その後、中島さんの自宅に移動し、素の一コマを撮ったところで取材は終了しました。

取材スタッフからは「取材を通して働きやすい職場ということが分かりました」との感想がありました。今後も、男女問わず、育休を気兼ねなく取得できる職場を目指していきます。

〈済生記者 中村雅之〉

〈福岡〉大牟田病院
院内外の糖尿病診療への
貢献を目指して

8月17日に開催された「第30回全国済生会糖尿病セミナー」、



にレベルアップし、糖尿病診療に関わる多くの職種と意見交換したいと考えます。

（リハビリテーション）
副課長
須崎裕一

〈北海道〉重症心身障がい児
（者）施設みどりの里
劇団みどりが
施設以外で初の公演

当施設の入所者さんと結成している「劇団みどり」は、9月8日に開催された済生会小樽くらしたい共生フェス2024の企画の一つとして、商業施設「ウイングベイ小樽」内の劇場ラタル座で公演「おきなかぶ」を行いました。

同劇団に所属する入所者さんは8人（ラタル座公演への出演は5人）。毎年度、絵本などを題材に施設内で春・秋の2回の定期公演を行っていますが、施設外での公演はこれが初めて



です。

公演当日、14時に開場すると次々に観客が来場し、開演前には満員御礼となりました。約100人の観客を前に、劇団員の皆さんはとても緊張していましたが、堂々とした演技を披露し会場は大きな拍手、大きな感動で包まれました。

〈機能訓練課 作業療法士 三谷紘世〉

納涼会・夏祭り
心が一つに

〈新潟〉特養康和園

8月22日、納涼会・夏祭りを施設内で開催しました。

コロナの影響で一時は開催が危ぶまれましたが、今年は無事に

に復活。行事の目玉は職員が手作りした立派な御神輿です。色鮮やかな法被に身を包んだ職員たちが「わっしょい！」の力強い掛け声とともに神輿を担いで居室を回りました。その姿に入居者さんも自然と笑顔に。手拍子を打って元気な声で「わっしょいー」と応え、中には一緒に神輿を担ぐ人もいました。施設は太鼓のリズムや祭りの活気に包まれ、皆で心一つに



する瞬間が随所に見られました。太鼓係を務めた筆者ですが、約100人の入居者さんがそれぞれ楽しみ、施設全体が一体となつて盛り上がる様子が温かくなりました。

〈済生記者 山田裕樹〉

〈新潟〉特養長和園
職員親睦バスケット大会で
心も体もリフレッシュ！

職員が企画したバスケットボール大会を10月3日に開催しました。

当日は職員だけでなくその家族も含め27人が参加。経験者・未経験者混合の3チームに分かれて試合を行いました。

ゴールが決まると拍手や歓声が上がると、とても白熱した試合展開に。攻守関係なく「がんばれー」「もう一回！」と応援する声もあり、会場の空気が一つになるのを感じました。コロ



ナ禍では職員同士で運動や交流の機会をつくるのが難しかったので、今回のバスケット大会は部署や世代を超えてリフレッシュできる有意義な時間となりました。最後は皆笑顔で記念撮影。スポーツの秋にふさわしく気持ち良い汗を流し、楽しい思い出となった一日でした。

〈済生記者 布施優子〉

「離れました!」
初めてのBLS研修

長崎病院

10月5日、上長崎小学校の児童（兄弟の未就学児を含む）33人と保護者22人が来院し、BLS研修を受けました。子どもたちのほとんどがBLS研修は初めて。人が倒れていた時の対処方法として、まずは周囲の安全確認、119コール、周りへの応援要請、心停止時の救命処置を学びました。BLS用の人形を出し、い



ざ実践となると、怖がる子がいる一方で「早く〜」と手伝おうとする子も。習った通りに人形の肩をたたくて声掛けし、周囲確認、電極パッドの貼り付けも上手にできました。「周囲から離れてください」というAEDのアナウンスに「離れました!」と応答する場面もあり、筆者にとっては終始目尻が下がらばなしの研修会となりました。

（済生記者 平川幸子）

富山病院

「BCM格付」を取得

当院は、日本政策投資銀行（以下DBJ）から「DBJ BCM格付」を取得し、9月30日、2階研修ホールで認定証授与式が行われました。健康管理センター増築のための資金調達としてDBJから融資を受ける際、当院は防災および事業継続への取り組みが優れているという「BCM格付」の評価を得たものです。

当院は防災および事業継続の対策に積極的に取り組んでおり、能登半島地震の発災後は約500人の避難者を受け入れ



ました。設備面では、津波や浸水被害に備えた止水対策や発電機の高所移設を実施。また、ガスコージェネレーションシステムを導入し、停電時でも平時の約80%の電力を供給できます。今年3月には、災害時の医療救護活動の拠点となる災害拠点病院に指定されました。

（済生記者 浅野由紀）

鹿児島地域包括ケアセンター

病院・施設共同感染研修で医療と介護の連携強化

8月22日、鹿児島市立病院の



を交えた研修を行いました。近年、介護・福祉の現場でも医療機能強化が求められています。今後も、医療現場、福祉現場での共同の研修や勉強会を重ね、さらに医療・介護の連携が

感染管理認定看護師を講師に迎えて、感染研修を鹿児島病院で実施しました。当日は鹿児島病院から医師、看護師11人、鹿児島地域福祉センターから看護師スタッフ7人が参加。これから流行するノロウイルス感染症の集団感染の予防法・対応方法について、実技



健康フェアに134人
クイズや体操が大好評

9月21日、「健康フェア&子ども調剤体験」をららぽーと湘南平塚で開催し、134人が来場しました。

昨年に続き2回目となる本イベントでは、シールラリーやクイズを導入するなど各ブースの内容をアップデート。健診センターの相談コーナーでは、子ども向けに生活習慣のクイズ、大

図れるように取り組む予定です。（なでしこの社 済生記者 大迫良代美）

（神奈川）湘南平塚病院

10月4日、松山秋祭りに先立ってお祭りごっこを行ないました。おそろいの法被を着た総勢58人の園児たちは、自分たちで色を塗り飾り付けをした御神輿7体を、「わっしょい、わっしょい」の掛け声とともに担ぎました。この日はあいにくの雨で、外で担ぐことはできませんでしたが、ホールに子どもたちの元気な掛け声が響き渡りました。まだ歩けない小さいクラスの子どもたちは鈴や太鼓を鳴らしながら、御神輿を揺らして本物

ホールに響き渡った「わっしょい」の掛け声

（愛媛）松山乳児保育園

（済生記者 川崎菜美）



さながらの「練り」を見せる年長者の雄姿を見つめていました。昼食には祭飯のちらし寿司を寿司桶いっぱい用意。保育士に取り分けてもらい、皆でたくさん食べました。日本の行事・風習を感じられる一日になりました。

（済生記者 宮内亜希子）

9月28日、第25回大阪市東部地域医療連携学術講演会をホテルニューオータニ大阪で開催し、地域の医療機関や当院の医師・スタッフ計81人が参加しました。福田和彦病院長の挨拶に始まり、脳神経内科・河野隆一院長による「アルツハイマー病と抗Aβ抗体療法」、脳神経外科・別府幹也部長による「最新の脳

幅広い演題で地域医療の連携を強化

〈大阪〉野江病院

への挑戦」と和歌山医大メゾットの紹介」と題して特別講演を行いました。

シンポジウムのテーマは「骨粗鬆症性椎体骨折」。(埼玉)川口総合病院整形外科主任部長・副院長・診療部長の新井嘉谷医師から「当院における骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術治療」、和歌山病院から「DISHを伴う骨粗鬆症性椎体骨折の新しい手術療法」について神前拓平医師などによる全7症例の発表があり、活発な意見交換が行なわれました。

〈和歌山病院 済生記者 松元靖寿

〈神奈川〉金沢若草園
楽しみ！早く泊まりたい！
待望の短期入所が再開

卒中診療と脳卒中後でんかんについて、いけじり内科外科クリニック・池尻真康院長による「コロナ禍〜2025年問題についての地区医師会の役割」の講演が続き、それぞれ活発な質疑応答がなされ、大変有意義な学術講演会となりました。最後は鶴見区医師会・長谷川正会長の挨拶で閉会しました。

〈地域医療連携課 副課長 竹中信二

入所（ショートステイ）を、10月1日から再開しました。短期入所は、ご家族の仕事の都合やレスパイト、将来的な障害者グループホーム利用を視野に入れ自立した生活に慣れるためといった目的で利用されています。サービス再開にあたって



は人員確保や設備更新などが必要になるため、梅雨明け頃から準備を進めてきました。設備面では安全性を考え、ガスコンロはIHクッキングヒーターに変更。また、各部屋にテレビを設置し、自宅に近い環境で利用できるようにしました。

利用者さんやそのご家族に再開の連絡をすると「楽しみ」「早く泊まりたい」との声が上がり、多くの申し込みがありました。

〈済生記者 日高純

楽しみながら医療に触れる済生会フェア

福井県済生会病院



9月8日に「済生会フェア2024」を開催しました。3800人が来場し、趣向を凝らした各ブースでは楽しみながら健康や医療への意識を高める光景が見られました。

大人気のお仕事体験では、放射線やリハビリ、お医者さん体験など七つの体験を用意しました。リアルオペ室では医療器具の電気メスやペアンを使って緊急手術で腹部に埋まったビー玉を摘出。体験した男の子は「お医者さんは大変な仕事だと思ったけど、なりたい気持ちが強くなった」と話していました。

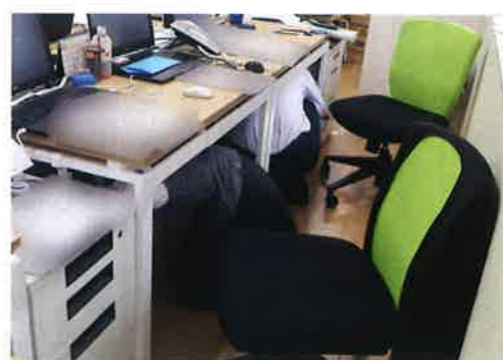
他にも、健診センターと福井県のコラボであるウォーキングイベント、クイズやゲームで臓器移植の理解を深めるブース、フードドライブ、良品計画の出張販売会など盛りだくさんでした。

〈済生記者 田中一弥

能登地震を機に災害への備えの大切さを再認識

富山病院

9月2日、「県民一斉防災訓練



練習シエイクアウトとやま〜」に参加し、当院管理棟で防災訓練を行いました。

シエイクアウトとやまは、県民の防災意識を高めることを目的に、県全域で防災訓練を行う取り組み。平成26年から実施されています。

午前10時に地震発生を想定した館内放送が流れると、職員は一斉に机の下に潜るなど、自分の身を低くし頭を守る行動を取っていました。元日に発生した能登半島地震では富山県内で史上初めて震度5強を観測。今年訓練前から職員の関心が高く、訓練中も真剣な様子でした。

これまで「富山県は災害が少ない」という認識が強くありま

全国済生会整形外科研究会 骨粗鬆症性椎体骨折への知見を深める

〈済生記者 浅野由紀

第7回全国済生会整形外科研究会学術集会を、9月14日に和歌山城ホールで開催しました。当日は和歌山病院の川上守院



長が総合座長を務め、WEB参加者16人を含む39人が参加。和歌山県立医科大学医学部整形外科学講座・山田宏教授が「骨粗鬆症リスクを有する脊椎疾患



〔長野〕 佐久市特養シルバール
ランドみついで
中学生の歌声に感動

9月21日、当施設からほど近い佐久市立東中学校の文化祭「白樺祭」の合唱発表会に招待され、入居者さん5人が音楽鑑賞を楽しみました。
東中学校との交流は、探求授業の一環で生徒が福祉施設体験をしに来所したことがきっかけ。



毎年秋の文化祭の合唱発表会に招かれるようになり、素晴らしい歌声を聞かせてもらっています。ここ数年はコロナの関係で一般開放がなかったのですが、久々に声かけをしてもらいました。

入居者さんは大きな体育館に入場して少し緊張気味でしたが、発表会が始まると、体育館に響く生徒たちの元気で美しい歌声に聞き入っている様子でした。終了後は精いっぱい拍手を送り、とても感動していました。
(済生記者 山浦裕子)

〔千葉〕 習志野病院
新人対象にBLS研修
必要な技術を身体で覚える

10月8日、新人38人を対象に



BLS研修を実施しました。
初期研修医3人と看護師2人が講師を務め、AHAガイドラインに準じた救急蘇生法の理解と実践、院内規定に沿った緊急通報システムの理解、心停止の心電図波形と除細動の適応の理解を目標に、講義が行なわれました。

BLSの流れについては、全員で訓練用AEDと救命講習用マネキンを使用してシミュレーションを実施。操作方法や協力要請までの一連の流れを実技形式で確認しました。
研修の振り返りではAEDの操作、胸骨圧迫の大変さを感じ

じたなどの意見ができました。最後に院内のAED設置場所を再確認し、修了となりました。
(人事課 佐藤昌明)

済生会 MA会

MAの結束を高める勉強会

8月31日、令和6年度第1回勉強会をオンラインで開催しました。横浜市東部病院から6人が参加したほか、全国の済生会

清く正しく強く明るい MA 生活
代行入力の鉄則

社会医療法人若弘会 右草第一病院 医療情報担当部長
スポーツ整形外科部長

今田 光一
大阪支部代表世話人
本部教育研修部 理事 学術出版委員長

日本医師事務作業補助者協会 日本クリニカルバス学会 電子クリニカルバス操作の代行操作に関する検討作業プロジェクト委員
日本医療マネジメント学会 評議員

病院から医師事務作業補助者(MA)と関係者、4施設から105人が集い、盛会となりました。

今回、講師を務めたのは社会医療法人若弘会若草第一病院の今田光一副院長。現役の整形外科医であるとともに、医療情報システム、クリニカルバス、そして医師事務作業補助に造詣の深い今田先生からMAが安心して、そして自信を持って働くための講義をしていただきました。

後半では、新潟病院診療支援室の木村雄介室長を座長としてMAの業務について全体デイスカッションを行いました。
今後もMAの結束をより強めていくために、年に2回の勉強会を継続していきます。
(神奈川・横浜市東部病院 医師支援室 鶴見怜央)

〔滋賀〕 特養淡海荘
全員そろっての敬老式典

9月17日、敬老式典を開催しました。コロナ禍では個々に時間を分けてお祝いしていましたが、約4年ぶりに全員が集合し、ご家族も含め約40人で開催することができました。

当日は喜寿3人、米寿3人にステージが上がってもらい、祝状やプレゼントをお渡しし、



〔山形〕 特養ながまち荘
大切な家族と大切な時間を

敬老の日の9月16日、2階研修室で敬老会を開催しました。
紀寿5人、白寿1人、米寿5人、喜寿1人とお祝いの対象者が多く、ご家族も参加してとてもにぎやかな式典となりました。

お祝いの対象者からは「こんなに立派なお祝いをしてもらって……」と感謝の言葉をいただきましたが、我々職員にとってはなによりも久しぶりにご家族とゆっくり過ごせて喜んでいただけた姿が印象的で、うれしい気持ちになりました。

トしました。赤飯や紅白饅頭などの祝い膳も用意しました。
今回全員集まって開催したことで、ご家族と入居者さん同士で祝い合うことができ、笑顔が広がる式典となりました。
(生活相談員 遠藤百虹)

式典にはフラダンススタジオ「フラ・ホニケ・アロハ」の皆さんも駆け付け、計4曲の演目を披露し会場に花を添えてくれました。
(介護職員 村岡千成美)

〔北海道〕小樽老健はまなす
楽しみに待っていました
幼稚園からのお客さま

コロナ禍前には毎年慰問して
いただいていた小樽市・いなほ
幼稚園の園児26人が、10月9日
に来館し、90人の入所者さんを
前に「歌とお遊戯」を披露して
くれました。



約5年ぶりの慰問ということ
もあり、首をながくして待っ
ていた入所者さんの中には、園
児の姿を見るなり涙を流す人も
園児たちは「大きな栗の木の下
で」など3曲を元気な声で歌い、
手遊びを一緒にするなど短い時
間でしたが楽しいひとときを過
ごしました。

自分のお孫さん・ひ孫さんを見
るような入所者さんのやさしい
眼差しが印象に残っています。
最後に園児たちから「元気で
いてください」と手作りのメダ
ルを首にかけてもらい、皆さん
とてもうれしそうでした。次は、
いつ訪問してくれるのかな？
楽しみです。

（済生記者 伝法俊和）

〔茨城〕水戸済生会総合病院
母子の命を守るために
院内研修会に多職種50人

6月・7月・10月、ERで
の産科領域の救急患者対応に関
する研修会を3日間開催し、経
膈分娩、新生児蘇生についての
シミュレーションを行ないまし
た。

当院は茨城県から救命救急セ
ンターと総合周産期母子医療セ



ンターの指定を受け、産科領域
の救急患者を多く受け入れてい
ます。そのため、救急対応に不
慣れた職員の不安心減や対応力
向上を目的として、多職種参加
型の研修会を定期的に開催して
います。

今回は、産科領域の救急に興
味を持った医師や看護師、薬剤
師、臨床検査技師など計50人が
参加。「実践できるかは不安だ
が、必要な準備物品などが分か
った」「これを機に救急との連
携を強めていきたい」など前向
きな意見が挙がりました。

（EHCU 光武杏樹）

〔東京〕中央病院
他県DMATとの
連携を強化
大規模地震に備える

内閣府主催の大規模地震時医
療活動訓練が9月28日に行なわ
れました。

今回は首都直下地震が発生し
た際の多数傷病者の受け入れや



他県DMATとの連携を想定
し、机上訓練を実施。当院か
ら8人、外部から10人が参加し、
日本DMAT事務局から派遣
されたコントローラーからリア
ルタイムで指導を受けつつ、患



堂々完成！
元気に彩られたかまどベンチ

〔静岡〕特養小鹿なでしこ苑

者のトリアージや入院、手術、
搬送の計画を立てました。
訓練では、日本DMATや
東京都、港区の独自ルールを考
慮した指示命令系統の整理も行
ない、隊員たちはその運用を確
認。また、沖縄県のDMAT
も訓練に参加し、当院から他院
への患者搬送を担当しました。
広島県のDMATも参加予定で
したが、当初の予定と異なり訓
練終了後の到着となり、移動時
間の予測は次回への課題となり
ました。（済生記者 鈴木香純）

本誌9・10
月号で、かま
どベンチ制作
の過程をお伝
えしましたが、
9月21日、つ
いに最後の工
程の「仕上げ
作業」を実施。
座面の装着と
レンガ部分の
ペイント作業
に28人が参加
しました。

今回の主役
は子どもたち。あえて題材は決
めず、各々自由に楽しみながら

〔熊本〕みすみ病院
経営戦略を全職員と共有

得意な絵などを描き、笑い声が
飛び交う中での作業に。こうし
て皆の元気が込められたかまど
ベンチが完成しました！
災害発生時にこのかまどを使
用したとき、ペイントを見て少
しでも元気な気持ちになる方が
いれば……炊き出しはもちろん
そのような作用もあるかまどに
なるとうれしいです。
次回は12月に行なわれる地域
のインクルーシブ防災活動（実
践訓練）でのかまどベンチの活
躍をお伝えしたいと思います。
（地域相談員 望月亜紀）

10月1日、経営改善に向けた
取り組みの現状を全職員に直接
伝えるため、経営戦略会議方針
説明会を開きました。

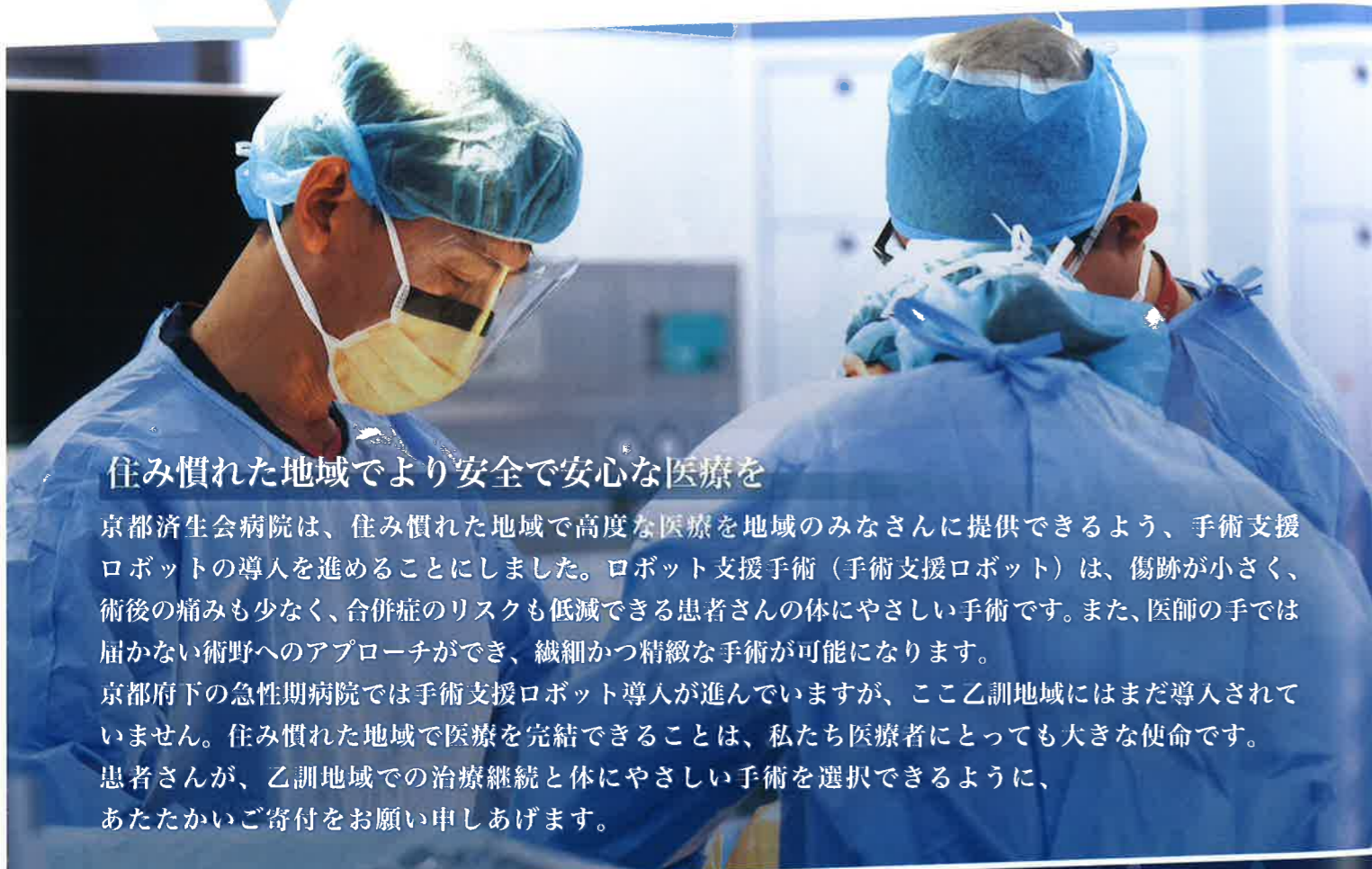
当院では7月から、三役・部
門長など11人をメンバーとして、
経営改善に向けた経営戦略会議
を週1回開催しています。ここ
では「患者増対策・単価増対策・
費用削減対策・人材の有効活用・
看護師の体制強化・医師の体制
強化」の6グループに分かれて
取り組みを行なっています。



説明会では、吉岡正一院長が
職員へ現状説明を行なった後、
各グループリーダーから今後の
取り組みについて説明がありま
した。地域医療を継続していく
ためにも、全職員が一丸となっ
て経営改善に取り組んでいき
たいと思います。

（済生記者 松橋麻紀）

京都乙訓の地域医療を支える 手術支援ロボット導入へご支援を



住み慣れた地域でより安全で安心な医療を

京都済生会病院は、住み慣れた地域で高度な医療を地域のみなさんに提供できるよう、手術支援ロボットの導入を進めることにしました。ロボット支援手術（手術支援ロボット）は、傷跡が小さく、術後の痛みも少なく、合併症のリスクも低減できる患者さんの体にやさしい手術です。また、医師の手では届かない術野へのアプローチができ、繊細かつ精緻な手術が可能になります。

京都府下の急性期病院では手術支援ロボット導入が進んでいますが、ここ乙訓地域にはまだ導入されていません。住み慣れた地域で医療を完結できることは、私たち医療者にとっても大きな使命です。患者さんが、乙訓地域での治療継続と体にやさしい手術を選択できるように、あたたかいご寄付をお願い申し上げます。

寄付募集 クラウドファンディング挑戦中

寄付募集期間 2024.9.2 [月] 19:00 ~ 2024.11.30 [土] 23:00

第一目標金額 1500万円 | ご寄付の使い道 手術支援ロボットの購入費の一部

寄 附 金 控 除 対 象



クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、思いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

※本プロジェクトは All in 方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。ご寄付確定後の返金やキャンセルは、ご対応致しかねますので、何卒ご了承ください。



©2024 Intuitive Surgical Operations, Inc.



ご寄付・詳細は下記のサイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/kyotosaiseikai2024>

京都済生会病院 レディーフォー

検索



**〈新潟〉 特養長和園
どれにしようかな？
果物狩りで秋を楽しむ**

オープンテラス花そーと（通所型サービスA）では、9月2～6日の5日間、利用者さん45人で果物狩りに行ってきました。果物狩りは、利用者さんが毎年とても楽しみにしているイベントの一つ。今回は食べごろのおいしいぶどうや梨を自分で選び、枝からもぎ取りました。ぶどうの木には数えきれないほど多くの実がついていて、どれにし



ようか迷ってしまっただけでした。ご家族へのお土産に大粒のシヤインマスカットや巨峰、梨をたくさん買って、笑顔で帰途についた皆さん。果汁がたっぷりなのとても甘い旬の果物で、秋の味覚を満喫したようです。
（済生記者 布施優子）

**〈埼玉〉 加須病院
ダイヤモンド研修で
10年を振り返る**

9月28日、10年目の看護師に向けた「ダイヤモンド研修」をテルモメディカルプラネットスで実施し、10～14年目の看護師15人が参加しました。医療技術の進歩や病院移転など、仕事面でも多くの変化があったこの10年間。その振り返り



を事前に行ない、研修当日、グループ内で発表しました。ディスカッションでは活発な意見交換が行なわれました。研修を企画した教育担当の丸山真紀子課長は「10年目という大きなターニングポイントでこれまでの経験を振り返り、人に伝える、言語化することを大切にしました。自分の看護観を深め、それまで気づけなかった良さなど自分自身と同僚の価値観を知るきっかけになったと思います」と総括しました。
（済生記者 蓬田絵里子）

〔栃木〕宇都宮病院
QCサークル大会賞を受賞

9月27日、QCサークル関東支部栃木地区「第6569回秋のカイゼン事例発表大会」に事務部秘書課が参加し、大会賞を受賞しました。

当院の穂高律子参与が総合同



会を務める中、サークルを代表し、松永美嘉参与と大塚涼子秘書課長が「コピー用紙使用量の削減」をテーマに、会議資料のペーパーレス化を実現するまでの一連の取り組みを報告しました。

大会の表彰委員からは「各会議の資料枚数を調査することは大変な労力だったと推察しますが、ペーパーレスを実現し、成果が出たことは良かった」と評価いただきました。

大塚課長は「院内の他の会議もペーパーレスの取り組みを進めていきたい」と抱負を語りました。（済生記者 川原彩花）

委託業者さん50人に感謝

〔大分〕日田病院

10月1日、開院34年を祝う記念式典を執り行ないました。今年度は病院業務への献身的な取り組みとして、透析チーム、DMATの表彰が行なわれました。また、日頃から病院を支える委託業者の皆さんに対して、

林田良三院長から感謝の意が伝えられました。立場は違えど、病院の理念と目標を理解し、50人近くの人々が当院のために協力し、支えてくださっていることを、私たち職員は改めて認識しました。

医師の働き方改革や医療DXなど、時代が大きく変化していく中、これからも済生会人、日田病院の職員として頑張っていきます。

（総務課 南谷 華）

〔岩手〕北上済生会病院

9月6日、令和6年度東北・



北海道ブロック研修「中堅看護師研修（アドバンス・マネジメントⅡ）」が当院で開催され、同ブロックの看護師54人が参加しました。

当日は、武蔵野大学ウエルビーイング学科・秋山美紀学科長を講師に迎え、「いきいきと輝いて看護ができる」をテーマに、

になった」「職場の後輩たちに教えたい」などの声が多く上がり、皆さん元気な表情で研修を終えました。

（総看護師長 高橋美枝子）

小学生が憧れの職業を体験

〔岩手〕北上済生会病院

当院は、9月15日に実施された小学生の職業体験イベント「鬼っジョブ」北上おしごとパーク「2024」に出展しました。

当日は北上市と西和賀町から小学4年生以上の児童約250人が参加。地元企業を中心に30余りのブースが設けられ、子どもたちはさまざまな職業を体験していました。また、体験後に給料としてもらえる疑似通貨ONY（オニー）をイベント内のお店で使うことで、社会の仕組みに触れていました。

今回が初参加の当院は「医師」「看護師」「臨床工学技士」の3コーナーで、3Dの内視鏡下での手術体験や呼吸器の回路組みと設定、採血と血圧測定などを体験してもらいました。約60人の参加者からは「操作が難し

9月28・29日にイオンモール天童で開催された「やまがた健康フェア」に出展しました。

県内の保健医療に携わる各団体がそれぞれ体験型のブースを出展し、参加者はスタンプラリーを行なうことで自然と歩数アップにつながるというイベント。当院は「モルック&けん玉体験会」を企画。どちらも年齢問わず無理なく取り組めるため人気があり、2日間で約300人が参加しました。



かったがやりがいを感じた」「人の命を救う大切さが分かった」などの感想があり、医療職への

山形済生病院

アニソンに合わせて体操ノリノリで身体を動かす

関心の高さがうかがえました。

（済生記者 掛川千恵子）

進センターめぐみのスタッフが健康体操を実演。アニメソングに合わせた体操で、参加者も「ノリノリで楽しく身体を動かせた」とこちらも大盛況でした。

（健康増進センターめぐみ 課長代理 遠藤美子）

〔福岡〕 特養むさし苑
メッセージやプレゼントに
終始笑顔の敬老会

9月18日、入居者さん88人の参加のもと、敬老会を盛大に催しました。当日は温かい秋晴れの日で、活気あふれる雰囲気施設内を包みました。



はじめに田中俊太施設長の挨拶があり、入居者さんの長寿を祝いました。続いて、当苑近隣の二日市保育所の園児による歌や踊りの動画が披露され、かわいらしい声や元気な踊りに入居者さんは目を輝かせ、拍手を送っていました。会場の飾り付けや職員からのメッセージカード、二日市保育所と同じく近隣にあるキッズ・キッズ保育園の園児による手作りの作品も、入居者さんを癒やしてくれました。

また、当苑から敬老の日のプレゼントが渡され、受け取る際の入居者さんの笑顔がとてすてきでした。

（済生記者 岸川涼二）

〔大阪〕 吹田病院

食品や衣類など
250点寄付

7月から8月にかけて、なでしこプランとして当院独自の地域セーフティネット事業である「食品・生活用品募集」を吹田医療福祉センター内で行ないました。

年2回が定着してきた当事業、職員食堂に回収箱を設置したところ、バックご飯、レトルト食

品、飲料、菓子、衣類、タオル、石鹸やマスクなど合計250点と、今回も多く寄付が集まりました。

今回は世間的な白米不足と重なり、大阪府社会福祉協議会や地域で活動するコミュニティン一シャルワーカーには「生活困窮世帯（者）」には主食となるバックご飯やカップ麺などが重宝される」と喜ばれました。今後ネットワークを維持し、継続的に一人でも多くの方を支援していきます。

（福祉医療支援課

MSW 中村悠子）



〔愛媛〕 松山病院
病院会議室で運動会！

9月28日、院内保育所の運動会を会議室で開催し、0〜3歳の園児16人とその家族42人が参加しました。

園児たちは保育士が考えたダンスやかけっこ、手作りの道具



を使ったアスレチック競技に参加したり、保護者と一緒にロープを引いたり、芋掘りゲームで遊んだりしました。

最後に行なわれたイス取りゲームでは、小学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちも参加。本気の戦いが繰り広げられ大いに盛り上がりました。2時間足らずの短い時間でしたが、緊張しつ

つ



山形済生会病院
東北・北海道ブロック優勝
3度目の栄冠期して全国へ

も元気がいっぱい普段とは少し違った園児たちの表情が見られました。

（経理課用度係 一木麻紀）

9月23日、第42回東北・北海道ブロック親善ソフトボール大会が福島市で開催されました。雨の中試合は行なわれ、当院は全国大会出場を懸けて戦う4病院（北海道）小樽、（岩手）北上、山形、福島）のリーグ戦を3戦全勝で勝ち抜き、見事優勝を手に入れました。2勝同士で迎えた小樽病院との3戦目は、両チームの投手の好投により緊迫した試合となりました。

当院はこれまで何度も全国大会に出場してきましたが、優勝は第11回、第12回の2回のみ。各ブロック大会を勝ち上がってきたチームの実力の壁は厚く、毎回悔しい思いをしてきました。今年こそは優勝カップを手にするよう、11月の（栃木）宇都宮での全国大会は精いっぱい戦います。

（臨床検査部 八矢幸大）

〔石川〕 こども園アイリス
キラキラ笑顔の金メダル

9月28日、明成小学校のグラウンドで運動会を開催しました。今年度は0歳児から5歳児クラスの計73人、ご家族も合わせると172人と多くの人が参加しました。

当日は絶好の運動会日和。手作りの旗を持つ5歳児の行進を合図に、運動会が開幕しました。0・1・2歳児の踊り、保護者



競技の大王転がしやパン取り競争などがあり、5歳児のスタンツ（組体操）は皆が見守っている中、堂々と演技をやり遂げました。大技のムカデやピラミッドには保護者からも感嘆の声が上がり、大きな拍手が沸き起こりました。

今運動会のテーマは「アイリスオリンピック〜元気がいっぱいキラキラ笑顔金メダル」。手作りの金メダルを胸につけた子どもたちの姿に成長を実感する運動会になりました。

（済生記者 田中 静）



topics

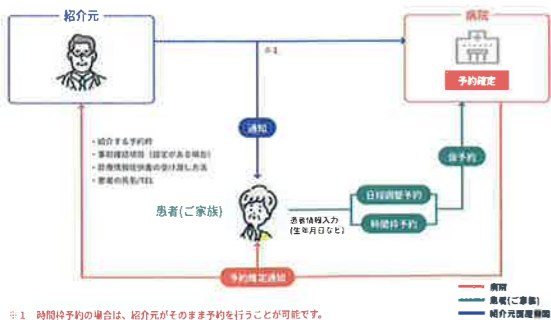


臨床検査技師長会関東ブロック会議」を当院講堂で開催し、15施設から33人が参加しました。
当日は〈栃木〉宇都宮病院の佐藤久長技師長が司会をし、〈埼玉〉川口総合病院の関谷晃一技師長が「臨床検査室における人材育成の実態及び課題について」のアンケート結果を報告。済生会施設間研修制度の実施に向けた対応、ISO15189認定取得4施設の動向などについても報告がありました。
研究会では、シスメックス株式会社人材開発部の棟尾顕士さんに、どの施設でも課題となっている若手層の人材育成について講演していただきました。
多くの施設での現状を知り、意見交換などで親睦を深めるこ



とができ、とても有意義な会となりました。
（臨床検査科長 猪浦一人）
（滋賀）特養淡海荘
緊張感を持って消防訓練
起震車による地震体験も
9月27日に消防訓練を実施し、職員約30人が参加しました。
防火管理者からの講義の後、水消火器を用いた消火器使用訓練、緊急通報の訓練など、介護職員を中心に緊張感を持って取り組みました。

Web予約システムが
スタート
地域医療機関の利便性向上のため、9月から「Web予約システム」を導入しました。
これまでは診療の申し込み



（大阪）中津病院
（事務員 澤井英貴）
今年には能登半島地震や、南海トラフ地震臨時情報の発表などがあったことを受けて、起震車による地震体験も実施。震度7は想像以上に揺れが激しく、模擬体験をした職員はまともに動くこともできませんでした。
また、これを機に防災物品をまとめた防災ボックスを各部署に配置しました。中にはランタンやコードリール、折りたたみヘルメット、ヘッドライトなどが入っています。
（事務員 澤井英貴）
現在は5診療科のみの対応ですが、今後は対応診療科を増やし、地域の登録医の意見も取り入れながらより良い環境の構築に向けて取り組みを進めていきます。
（地域連携・患者支援センター 病診連携室 岩香佳子）



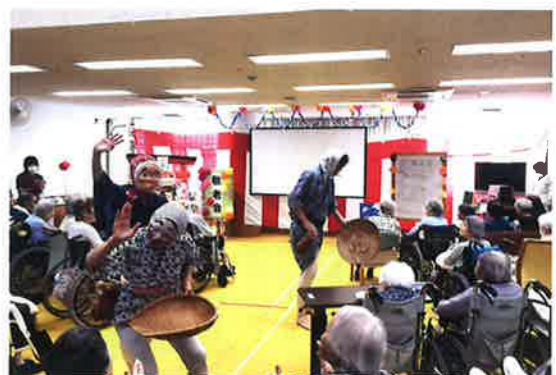
患者さん大満足 手作り帽子&マスク
9月18日、川内なでしこライオンズクラブから、手縫いのタ



オル帽子20個とマスク45枚を寄贈いただきました。
同クラブの中池君子会長は「性別を問わず落ち着いた色が好まれる方も多いので、紺や黒グレーといった色合いの物も用意しました。こうして直接、医療者と会って話を交わすことも、活動意欲につながります」と話し、有留邦明院長補佐にタオル帽子とマスクを手渡しました。
がん患者さんの日常が少しでも快適になるようにとの思いが込められた同クラブからの寄贈品は、肌に優しく丁寧な縫製で



使いやすいと評判。「お風呂上がりもこの帽子を被ると温かくていいよ！」など、患者さんから感謝の声が多数集まっています。（済生記者 竹之内美和）
（愛媛）小田老健ふじの園
「私は誰でしょう？」
クイズで大盛り上がり
9月13日、当園ホールに入所者さん・利用者さん、職員合わせて約50人が集い、敬老会を開催しました。
はじめに、職員扮する神主の祝詞で皆さんの長寿をお祈りしました。その後、百寿、卒寿、米寿のお祝いを行ない、表彰状と記念の写真立てを贈りました。当園の最高齢者は101歳で、



元気に過ごされています。
演芸の部では利用者さんと職員の若い頃の写真を借りての「私は誰でしょう？」クイズ。「若い！」と会場は大盛り上がり。写真を見て昔を思い出し涙ぐむ人もいました。結婚式の写真もあり、とても素敵な時間でした。職員によるどじょうすくいも会場全体を盛り上げてくれました。（済生記者 岡田理沙）
（埼玉）加須病院
臨床検査技師長会に33人
意見交換などで親睦深める
9月27日、「令和6年度済生会臨床検査研究会・全国済生会

〈広島〉 老健はまな荘
学生ボランティアさんと
楽しいたこ焼き作り

8月7日に開催した4階療養棟の夏祭りに、広島文教大学の新原英里子さん、黒瀬高等学校福祉科の森本彩穂さんと倉谷美結さんがボランティアとして参加してくれました。また、実習に来ていた広島国際大学・作業療法専攻の神田昌汰さんにも加わってもらいました。

皆さんには利用者さんと一緒にたこ焼きを作ってもらいました。たこ焼きが出来上がると、利用者さんからは「わしのをあげるけんたら若い衆も食べんさい」とあちこちから声が上がります。急ぎよ皆さんにも食べてもらうことに。食べている瞬間を激写してもらいました。



今夏3回も来てくれた森本さんは当施設への関心度が高かったように感じています。進学予定とのことですが、これをきっかけに将来当施設に入職してくれたらうれしいです。

(済生記者 佐藤 聡)

〈山形〉 養護(盲) 老人ホーム
山静寿
いっぱい釣れた！

大漁だ！

10月1日、当施設の1階食堂で、7人の入所者さんが「魚釣りゲーム」を楽しみました。

魚は、以前手芸クラブで作成した手作りの魚たちを使用。その魚たちを床いっぱい並べ、ゲームを開始しました。釣り竿と魚の口元には磁石がついていて、「カシヤン」という音がエサに食いついた合図です。強力な磁石を使用しているため、視覚障害の人にも、その音と手応えでアタリが感じられるのです。始めのうちほうまく釣れませ



んでしたが、慣れてくると皆さん入れ食い状態。慣れた手つきでゲームを楽しみ、釣り経験のない人も「いっぱい釣れた！」と、生き生きとした表情でゲームに夢中になっていました。

(済生記者 丹 秀樹)

〈大阪〉 特養城東園

フードドライブで
災害備蓄食を有効活用

10月8日、更新時期が近づいた災害備蓄食の第一弾として白がゆ6ケース(240個)を生活協同組合おおさかパルコー

し、寄付先を紹介していただきました。

来園した担当職員からは「必要とされる方へ有効活用させていただきます。ありがとうございます。これら白がゆは、子ども食堂でリゾット風にアレンジしたメニューで提供されることでした。」

(事務長 川留章義)



これまで更新が迫った備蓄食は試食用として職員に提供してきましたが、備蓄食の扱いについて園内で検討した結果、生活支援を必要とする方々にフードドライブの一環として活用していただくことになりました。大阪市城東区役所の担当課に相談

〈熊本〉 しらふじ子ども園
皆でたのしい！ 運動会

10月5日、城南総合スポーツセンターを会場に、全園児対象に「第21回たのしい運動会」を行ないました。園児172人、保護者400人ほどが参加し、にぎやかな一日となりました。

0歳児クラスは「はいはい競争」を実施。はいはいやよちよち歩きでゴールを目指す姿に、観客席からは「かわいいー」の声が聞かれました。

1歳児クラスは「親子技巧走」、2歳児クラスは「かけっこ」と「親子技巧走」を行ない、3歳児・4歳児・5歳児クラスは

それぞれ5つのプログラムに参加しました。

異年齢競技では、フープを三つなぎ、4歳児、3歳児、5歳児の順に電車のようにリレーを行ないました。年下の園児にベースを合わせて進んで協力している姿が印象的でした。保護者の皆さんのご協力もあり、楽しい運動会を行なうことができました。

(主幹保育教諭 藤本直美)

福井県済生会病院

「特定保健指導」で改善
目標達成の4人を表彰

生活習慣病の予防・改善につながるための特定保健指導を受け、目標を達成した4人の職員表彰を8月26日に行ないました。

特定保健指導にまつわる表彰は本年度から。表彰を受けた男性職員は「指導を受けたことで健康に対する意識が大きく変わった。アドバイスを実践するうちに、日々の生活が楽しくなりました。自分で考えた取り組みも続けることで、このような結果につながったと思う」とコメント。担当する保健師は「今後も特定保健指導実施率を増やす取



組みを積極的に行ない、職員の健康増進に取り組んでいきたい」と今後の抱負を述べました。

(総務・企画課 山村健太)



〈富山〉なでしこ保育園
パラバルーン
大きく開いた！



9月7日、富山県総合運動公園屋内グラウンドで「第57回なでしこ保育園運動会」を行いました。参加者は年長児27人、年中児24人、年少児26人とそのご家族で、総勢200人程度になりました。

今回の見どころは、年長児と年中児が7月から一生懸命取り組んできたパラバルーン。はじめはタイミングがバラバラ、パラバルーンが膨らまないなどかなり苦戦しましたが、練習を重ねるうちに少しずつ皆のタイミングが合うように。本番では心を一つにし、音楽に合わせて見事技を成功させる



観客席からは「おー！」という歓声や大きな拍手が沸き起り、運動会終了後の会場は子どもたちのあふれる笑顔と達成感に包まれました。

（済生記者 宮本亜実）

〈三重〉明和病院

ワーキングセミナーで
職員のレベルアップを！

事務部ワーキングセミナーの年間表彰を8月26日に行ないました。本セミナーでは、事務部に所属する職員がレベルアップを目的に全6チームに分かれ、1年を通してグループワークを行な



っています。各チームが取り組んだテーマを発表し、職員投票で最優秀チームと優秀チームの2チームを決定しました。最優秀チームは、エネルギー使用量削減への取り組みについて発表した技能労務員を主体としたチーム。優秀チームは、ネガティブイメーজからの脱却（人事異動に怯えないために）について発表した他部署合同チームでした。どのチームもそれぞれの良さや個性があり、充実したセミナーとなりました。

なお、最優秀チームは済生会学会、優秀チームは済生会フォーラムに参加してもらいます。

（済生記者 藤岡拓人）

福岡総合病院
看護学生対象に
学びを深める災害実習



当院では未来の看護師育成のため、看護学生の実習を受け入れています。本年度からは災害

看護の実習を開始し、福岡市医師会看護専門学校を学生を対象に実施。1日10人で8日間、計80人が参加し、7月25日に最後の講義・実習を終えました。

講師は当院DMAT隊員として豊富な経験を持つ田尻晋吾看護係長と山下孝之看護係長、牧野祐也看護師が担当。当院での災害対応を軸にBCPや災害対策マニュアルの説明、病棟



での災害訓練やドクターカー見学、エアストレッチャー体験などを1日かけて行ないました。学校で得た知識や技術は、実習の場でさらに学び体験することとで統合され、理解が深まりま

2施設合同で創立30周年のお祝い！

〈広島〉特養たかね荘・ケアハウス安芸

ともに創立30周年を迎えた特養たかね荘とケアハウス安芸は、10月6日、隣接する広島病院多目的ホール等に利用者さんや地域住民など約300人を迎えて記念行事を開催しました。菊間秀樹支部長の開会の挨拶

身の大道芸人れもんさんによる芸を楽しんでいただきました。サブ会場では介護体験・介護相談や、裏千家茶道の先生を招いての早茶会、同じ町内にある社会福祉法人つじじによる物販会などが催され、盛りだくさんのイベントとなりました。

来場者からは「とても楽しかった」「介護を身近に感じることでできた」などの好評をいただき、大盛況で閉会しました。

（済生記者 坂本洋司）

〈山形〉特養ながまち荘
BCP訓練で課題明らかに

10月16日、長期入所・短期入所・通所介護を対象に総合防災訓練とBCP訓練を実施し、職員30人と利用者さん29人が参加しました。



総合防災訓練は、市内で震度5の地震発生後、施設北側のボイラー室から出火したと想定。出火元から近い利用者さんから避難し、職員は水消火器による初期消火を行ないました。

BCP訓練は、防災委員メンバーで実施。結果、発災時の利用者さんと職員の安否確認方法や、出勤率の想定、入浴や食事の再開のタイミング、ケアの優先順位など、同時進行で検討する事項が山積みであることが分かりました。有事の際により実践的で有効な計画となるよう繰り返し検証し、計画の精度を高めていく必要があると感じました。

（済生記者 高見友郁）

topics



聞いていました。最後に当院医師との懇談会が行なわれました。学生側から医師への質問や病院に関する疑問、地域医療や地域活性化についての活発な意見交換がなされ、大



発見までに17分かかり、初

患者さんがいなくなった！ 離院・離棟訓練で課題を共有

〈石川〉金沢病院

いに刺激になったようです。
(済生記者 笠井康宏)

8月30日、医療安全対策室が中心となり、患者さんの離院・離棟による探索シミュレーションを行ないました。

当日は各部署から約20人が参加。患者役の山城輝久・医療安全

対策室長が実際に院内に隠れ、スタッフからは院内マップを片手に探索しました。



〈神奈川〉横浜市東部病院
看護補助者研修に74人
認知症のVR体験など実施
9月14日と21日の2日間、ナ



ースエイド・介護福祉士・保育士を対象とした看護補助者研修を当院多目的ホールで実施しました。

本研修は、看護補助業務を遂行するために必要な基礎的な知識・技術を学習し、技能を習得することを目標に毎年行なわれています。今年もナースエイド46人、介護福祉士14人、保育士1人、病棟クラーク13人、計74人が参加しました。

研修内容は、感染管理や医療安全、化学療法薬の取り扱いなどの座学のほか、ゴーグルとヘッドフォンを着用して認知症の中核症状を体験するVR体験

や、グループワークで対話スキルを学ぶ機会もありました。
(済生記者 荒木愛美)

認知症は永遠のテーマ 「愛のあるケアとは？」

〈滋賀〉守山市民病院

9月20日、あいむ勝部（訪問看護ステーション・小規模多機能型居宅介護事業所）で認知症に関する出前講座を行ない、看護師や介護士など19人が参加しました。

講師を務めたのは、当院の認知症看護認定看護師・中田紅美さん。事前のヒアリングで参加者が認知症の人への対応に思い



悩んでいることがうかがえ、質疑応答では実際の症例にまつわる質問が多く寄せられました。中田看護師は「そういう場合は……」と関わり方や対応のヒントなどを丁寧にアドバイス。今後の業務に生かせる内容に「とても分かりやすかった」「ケアを改めて考え、関わっていききたい」との声や、「シリーズ化してほしい」との要望もあり、参加者の熱意を感じた1時間となりました。
(済生記者 中嶋元香)

茨城 常陸大宮済生会病院 医学生11人が病院見学

茨城県は修学資金制度を利用しての医学生を対象に修学生サマーセミナーを実施しており、その一環で9月5日、医学生11人が当院を見学に訪れました。

小島正幸病院長による済生会の理念や地域の医療情勢などの講話の後、2グループに分かれて施設見学。引率医師や各所担当から医療機器等の説明がありました。当日は手術日のため手術室の見学はできませんでしたが、学生たちは検査機器、放射線機器について熱心に説明を



動から発見に至るまでの過程で「各部署への連絡方法や患者情報の共有をいかに速やかに行なうか」といった課題も見えました。実際には10分もあれば患者さんは病院から離れます。それだけに、速やかな初動と一斉探索が大切であることを実感しました。
(済生記者 浅野幸恵)

大阪北リハビリテーション病院 体力・筋力測定会で 今の自分の身体を知ろう

10月7日、大淀南医療福祉総合施設SKホールで「体力・筋力測定会」を実施しました。



大阪府北区大淀西・東地域に居住する65歳以上の人が対象。当院の理学療法士と中津病院の地域包括ケア連携士が中心となり、北区大淀地域包括支援センター、地域の調剤薬局グループ、特養施設等の多機関の協力を得て、サルコペニア予防に向けた歩行テストや体組成計を用いた身体測定などを行いました。2時間半で44人の参加があり、「普段できない測定ができて良かった」「自分の体力が分かった」と自身の身体について知っていただく機会となりました。
(医療ソーシャルワーカー 浅山麗子)

〔長野〕佐久市特養シルバーランドみついで

敬老を祝う芋羊羹

9月26日、今年も敬老の日に合わせて「お菓子処・日野屋」から手作りの芋羊羹をいただきました。当施設がオープンしたときから約20年間欠かさず寄贈してくださっており、入居者さん



す。

入居者代表の依田ゆき子さん
と依田孝さんは「甘いものには目がないのよ、毎年ご馳走様です」とお礼の言葉とともに受け取りました。物価高騰の昨今、入居しているお年寄りに喜んでほしいと続けてくださる店主の萩原正拓さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今年はいサビス、長期入所、短期入所、職員合わせて200食も笑顔で届けてくださいました。サツマイモの自然な甘さと、日野屋さんの思いがぎゅっしり詰まったおいしい芋羊羹でした。

（済生記者 山浦裕子）

〔兵庫〕看護小規模多機能型居宅介護なでしこ神戸

多機能祭りで夏を満喫！

8月30日に毎年恒例の多機能祭りを行ないました。

利用者さん15人、職員14人が参加し、一緒に盆踊りや神輿を担ぎ「ワッショイ」の掛け声で盛大に盛り上がりました。また、的当て、輪投げ、金魚すくい等も行ないました。普段見られないような笑顔も見られ、楽しく



どこか懐かしいひとときを過ごしました。

昼飯には鉄板で焼いた広島風お好み焼き、ラムネ、おやつにはアイスクリームを用意し、中には「美味しかった。お代わりないの〜」という利用者さんも、夏祭りの雰囲気を感じられる1日となりました。

（介護副主任 兵頭達也）

〔富山〕なでしこ保育園

バスケット場でダンス披露！

9月26日、プロバスケットボールチーム・富山グラウジーズの専属ダンスチームG・O・Wによるダンス教室が当園遊



最後には教わったダンスを年中児と年少児に披露し、全員で一緒に盛り上がりました。

10月6日には富山市総合体育館で行なわれたグラウジーズ公

回、先輩職員を招いてそれぞれの視点での講話をお願いしました。

新入職員からは「先輩の方々が私たちの成長を願っていることを知ることができた。その思いに応えられるよう、1日1日

を大切に、仕事をしていきたい」との決意も聞かれました。

研修企画者として、先輩職員として、これからも「see you」（あなたの頑張りを見ているよ）」の思いで見守っていきます。（経営企画課 本橋和宏）

健診センターに最新機種のCT装置導入

〔東京〕中央病院

9月29日、当院総合健診センターに新しいCT装置を導入しました。

ヨン検査として心臓CT検査を健診センター内で実施できるようにする予定です。

（済生記者 鈴木香純）

これからも見守っているよ 新入職員の研修が無事終了

〔埼玉〕川口総合病院

9月27日、新入事務職員を対象に4月から一開催で実施してきた事務職員初任者研修（全6回）が無事終了しました。

今年は見守り手職1人も加わり計11人が参加。研修内容は大きく二つあり、一つ目は敬語やビジネス文書、電話応対など社会人の基礎的スキルの習得。二つ目は職員同士の一体感・連帯感の向上です。毎



日本財団の助成金を受けて導入されたもので、最新AI技術（Deep Learning）を活用した画像の質の改善、正確なポジショニングと撮影プランの確立により再現性の高い検査結果を得ることが可能です。さらに、銀フィルタ（Silver Beam Filter）の使用により、受診者への被ばく線量をこれまで以上に抑えることができます。

最新機種を導入したことで、今後はオプシ



〈大阪〉中津病院
無印ポップアップストアで
仕事の合間にリラックス

9月11日、職員向けの無印良品ポップアップストアが1日限定で当院会議室にオープンしました。
無印良品店舗で流れているケ



ルトミュージックに包まれ、来店した職員はお気に入りのアイテムやおやつ用のバームクーヘン、おせんべいなどを購入。限定の店舗でしか取り扱いのない「和漢茶」の試飲もあり、仕事の合間にリラックスしたひとときを楽しんでいました。

今回の企画は総務課と広報課が主導し実現したもので、購入者は99人を数えました。これからも職員の皆さんが楽しく過ごせるよう、さまざまなイベントを企画していきます。

（済生記者 鈴木亜希乃）

〈兵庫〉特養ふじの里

甘いもので元気に！
うれしいケーキバイキング

夏の疲れを持ち越さないよう



に甘いものを食べて元気になってもらおうと、8月28日にケーキバイキングを行ない、利用者さん50人が参加しました。
今回は職員7人と栄養課の実習生2人でケーキや季節の果物を準備し、アフタヌーンティー風の盛り付けで目でも楽しめるように工夫しました。
ケーキを並べたテーブルをユニットに運ぶと「おいしそう」と皆さんの視線がケーキに注がれます。ご自身でケーキを選んで、好みの飲み物と一緒に楽しんでもらいました。
利用者さんには「普段こんな甘いもの食べられないからう

れしかった」「外にも行かれへんから、こんなおいしいものを用意してくれて良かった」と喜んでもらえた様子。今後も利用者さんの刺激になるような行事を開催していきます。

（西館ユニットリーダー 山口貴美子）



〈栃木〉高齢者ケアセンター

活気あふれる夕涼み会
どじょうすくいで大笑い！

9月13日、当センターで恒例

の打ち上げ花火を行いました。また、コロナ禍前の活気を取り戻すべく、今年度はセンター内各施設から実行委員を募り、夕涼み会も同日開催しました。
夕涼み会には各施設から100人近い入居者さんが集結。ビアガーデンの他、たこ焼き、かき氷などの縁日屋台を楽しんでいただきました。余興で好評だったのが、資格を持つ職員による「どじょうすくい」。仕草も表情も一級品で、ある入居者さんは「生で見るとは初めて。おもしろくて仕方がない」と

踊る姿に笑いが止まりませんでした。

夕食後の花火は、あいにくの雷雨の中。ところが、雷鳴が鳴り響く中豪雨にあらがう花火もまた圧巻で、思い出に残るイベントとなりました。

（栃木・特養とちの木荘 済生記者 川上藍美）

当院には歯科がないため、地域の口腔サポートセンターと連携して口腔管理を行なっています。医科歯科連携が推進されている昨今、本イベントの開催が連携を深める一助にもなりました。

（栄養科 主任管理栄養士 塩濱奈保子）

京都済生会病院
口と栄養について学ぼう
歯科医師会とイベント共催

8月25日、当院を会場に「栄養ワンター2024・口と栄養の正しい関係」を京都府乙訓歯科医師会、歯科衛生士会と共催しました。

当日は、大橋瑞己歯科医師の「オーラルフレイル・誤嚥性肺炎」、筆者（管理栄養士）による「フレイル予防の食事について」の講演のほか、坂口千穂歯科衛生士による嚥下体操、口腔乾燥の度合いや嚙み力を測定する検査、InBodyによる筋肉量測定体験、各職種による相談も実施。アンケートでは来場者の満足度が大変高く、伝えたいことが伝わるイベントになりました。



いまいみささんの新作をプレゼント!

お正月 おりがみ

いまいみさの折って作ってのしいおりがみ

しめ縄風リース飾り・鏡餅・羽子板・門松の4種類の作り方、おりがみ、シールのセットです。お部屋に飾って楽しめます。

以下の二次元バーコードからご応募ください。

申し込みは11月末まで。当選は発送をもってかえさせていただきます。

〔愛媛〕松山老健にきたつ苑 家族と一緒に長寿を祝う

9月14日、利用者さんの長寿を祝う敬老会を開催しました。



今回はご家族も招待し、利用者さん70人、ご家族40人が集うにぎやかな会となりました。

今年も利用者さんは出張アロマフットマッサージで癒やされ、「MaKaNaLea」さんによるフラダンスの発表を鑑賞。その後は利用者さんには紅白饅頭を、ご家族には松山ワークステーションでしこ自慢の手作りクッキーをご用意し、各フロアで喫茶を楽しんでいただきました。

最後は、ご家族とフラダンスの踊り手さんと一緒に写真撮影。「きれいやね」「昔ハワイに行ったことを思い出したよ」「私も踊りたいわ」「足も気持ち良くなつたし。良い匂いやね」と、皆さん終始笑顔で和やかな一日となりました。

〔介護福祉士 佐伯 悠〕

〔愛媛〕西条老健いしづち苑 世界の少女少女が織りなすバイオリンの音色を堪能

8月23日、バイオリン演奏楽団「タルミバイオリンズ」の少年少女12人が〔愛媛〕西条特養を訪れ、バイオリンやクラリネットを演奏し、当苑8人、西条特養30人の利用者さんが鑑賞



しました。

タルミバイオリンズツの皆さんは25日の西条市合併20周年記念事業「We Are The World 交流フェスティバル」に出演するために愛媛に来られ、イベントの前に西条特養を訪問してくださいました。

イタリア・アメリカ・フランスからやって来たかわいい音楽家たちの素晴らしい演奏に、利用者さんも手拍子したり口ずさんだりしながら、満面の笑みで楽しい時間を過ごしました。

演奏後にはかわいいキーホルダーのプレゼントまでいただき、

〔兵庫〕特養ふじの里 今年一緒に敬老祝賀会

9月14日、東館・西館合同の敬老祝賀会を西館ホールで開催しました。参加者は利用者さん



100人と職員20人。昨年はコロナ感染拡大への配慮からご家族はホールの窓越しでの参加となりましたが、今年はホール内で一緒に、25人が参加しまし

た。

今年の祝寿対象者は12人で、最高齢は102歳。いつも元気に優しく職員に話をしてくださいます。表彰やご家族の手紙を読み上げているとき、涙に目を潤ませている人もいました。

余興で、職員が東西に分かれて皿回し対決をしました。どの職員もなかなか上手で、利用者さんの黄色い声援も力となりいい勝負に。僅差で東館が優勝しました。

最後に利用者さん、ご家族、職員で集合写真を撮りました。

皆さん、本当におめでとうござ

います。

〔鳥取〕境港総合病院 病院にはいろんな職種があるんだな

9月17〜20日に2人、25〜27日に2人、地域の中学校2校の生徒計4人が当院で職場体験を行いました。

それぞれの日程で、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、看護師、診療放射

線技師、リハビリテーションセラピストといった病院のさまざまな職種の仕事をじっくり体験してもらいました。

体験を終え、生徒からは「医師や看護師以外にも多くの職種の人が治療に関わっていることを知った」「臨床工学技士や放射線技師などの職種があることを初めて知り、とても興味があった」「いろいろな職種があるけれど、やっぱり看護師になりたい」など、多くの感想がありました。

〔済生記者 亀尾美子〕



受審をきっかけにチームで輸血業務を改善

滋賀県病院

本年度から当院は、日本輸血・細胞治療学会が実施する輸血機能評価認定制度（I & A 制度）認定施設として認定を受けました。

I & A 制度とは輸血療法を実施する上で適切な輸血管理が行なわれているか否かを第三者

（I & A 制度視察員）が点検し、安全を保証する制度です。

今回の受審にあたり、I & A 視察チェックリストの約80の認定項目と重要項目に基づいて、輸血マニュアルの改訂や業務手順の見直しを行いました。

受審をきっかけに、輸血認定医と臨床輸血看護師、医療安全管理者、認定輸血検査技師が中心となり、当院の輸血業務を改善。これが、チーム医療で取り組む安全な輸血医療への足がかりになったと感じています。

5年後の更新に向け、組織体制づくりや人材育成にも注力していきます。

（臨床検査科係長 大濱 愛）

〔栃木〕宇都宮乳児院

人形劇団わにこさんが来た！

10月16日、「人形劇団わにこ」さんが当院でボランティア公演を行なってくれました。

わにこさんは、人形制作から音響・公演までをほぼ一人で手掛けるプロ劇団。この日はお手

伝いの方と2人で来院しました。当日は、1〜3歳の子もたち20人が人形劇を観賞しました。たくさんの動物が登場する「どうぶつ村のひろば」や「みんなできゆうぎゆう」、観客がぬいぐるみをもって参加する「くるくるくる」の3演題が披露されました。

わにこさんの劇は、リズムの楽しさの中に学びやしつけ、ふれあいがさりげなく織り込まれていて、子どもたちだけでなく大人も自然と歓声を上げてしまう素晴らしい公演でした。

（済生記者 大久保彰子）



〔山形〕特養愛日荘

5年ぶり家族参加の敬老会

9月12日、3階の交流スペースで敬老会を行いました。

5年ぶりにご家族も出席しての開催としたため、参加者は職員も含め45人に。また、会場に



来られない人にもお祝いしてもらいたいと思い、会の模様は自主放送設備により、館内すべてのテレビで見られるようにしました。

今年は、節目の年祝いの人



新潟県中央基幹病院
大規模災害に備えて
防災ヘリの離着陸訓練

新潟県消防防災航空隊と三条市消防本部の立ち会いのもと、9月5日に「防災ヘリコプターの離着陸および傷病者引継ぎ訓練」を実施し、消防本部から6人、当院から13人が参加しました。

この訓練は、災害や緊急時に備え、防災ヘリコプターの安全な離着陸と傷病者の迅速な引継ぎ手順を確認することを目的としています。防災ヘリはドクターヘリより一回り大きく、ダウンウォッシュ（ヘリコプターから吹き下ろされる風）の影響が

が過去最多の18人を数えました。長寿7人、百寿4人、白寿3人、米寿4人で、最高齢は栄城きのさんの104歳。山形市長の祝辞を阿部久施設長が代読し、賀詞や記念品を贈呈しました。次に、各年祝いの人から順にご挨拶いただきました。

最後にご家族も交えて記念撮影を行ない、敬老会はなごやかに幕を閉じました。

（済生記者 高橋 睦）

強く飛散物が発生しやすいため、注意が必要です。

（済生記者 小柳裕一）

〔山口〕豊浦病院
遠隔病理診断導入に関する
記者説明会

県内初の遠隔病理診断導入（本誌10月号掲載）に関する記者説明会を、9月10日に当院大会議室で開催しました。

初めての記者会見で不安もありましたが、他施設の皆さんにアドバイスを受けながら準備を



進め、当日はテレビ局3社、新聞社3社が取材に訪れました。藤本拓也手術部長が遠隔病理診断の概要や目的について説明した後、中司謙二院長が「山口県には過疎地域がたくさんあります。同様の課題を抱えている他の地方病院にもこういったシステムが広がってほしい」と話しました。

連携する山口大学の教授にも参加していただき、活発な質問も飛び交い、大いに盛り上がる説明会となりました。

（済生記者 西田千鶴）



〈愛媛〉松山特養
真鯛20匹で長寿の祝い！

敬老の日を前にした9月14日、愛媛県魚類養殖協議会から真鯛20匹を受贈しました。同協議会からは10年以上前から「新鮮な魚を食べて長生きしてください」と、敬老の日に合わせて寄贈いただいています。今年も水揚げされたばかりの真鯛340キロが、松山市内13カ所の高齢者施設に届きました。当日はテレビ愛媛の取材が入り、山崎準平施設長が応対した寄贈式や、入居者代表4人への



インタビューの様子が放映されました。丸々と太った真鯛の前に満面の笑顔を浮かべる入居者さんたち。「こんな立派な鯛は普段見ることないですね」「やっぱり鯛めしが大好きです」「ありがたい、最高!!」と次々と喜びの声をあげていました。
(事務 夏井理恵)

〈大阪〉吹田病院
嚥下障害を疑似体験して
学びを深める

10月10日、第8回在宅をともを考える会を開催し、過去最高の93人の参加がありました。当院の谷口尚志・摂食・嚥下障害看護認定看護師による講演では、嚥下障害の疑似体験を実施。例えば、目を閉じて隣の人に食べさせてもらい、食べさせる人も声をかけずに食事を口に運ぶことで、口の中に入ってくるか分からない緊張感を味わいました。他にも、舌を使わずに嚥下するなどの体験をしました。嚥下障害を体験したことで学びが深まり、「ではどうする?」という投げかけの結果、環境調整の重要性を理解することができました。



この多職種交流会も人が人を呼び、北摂地域以外からの参加が増えています。地域コミュニティの輪がますます広がっていくことが楽しみです。
(ホームケア支援課主任 加藤尚子)

京都済生会病院
脳年齢で一喜一憂
多世代が楽しめる
イベントに

9月7日、J-R長岡京駅近くのバンビオ1番館で開催された「長岡京まるごとヘルシーフ

エスタ」に出展しました。当日は残暑厳しい1日でしたが、総来場者数は約1100人。当院ブースも大変にぎわいました。3度目の出展となる今回は、脳年齢チェック、血圧測定、酸素飽和度測定を実施。併せて9月から実施中のクラウドファン



ディングのPRも行ないました。脳年齢チェックは90人が体験し、「実年齢より10歳若い」「年相応だった……」など結果に一喜一憂。お父さん・お母さんが



〈新潟〉なでしこほかほか
保育園
競技も応援も全力で!
ほかほかオリンピック開催

10月1〜4日の4日間、運動会ごっこ、題して「ほかほかオリンピック2024」を開催

チェックを受けている間、子どもには酸素飽和度測定で医療機器を体験してもらおうなど、多世代が楽しめるイベントになりました。「済生会が出展するから来た」という人もいて、スタッフのモチベーションがアップしました。
(企画広報室長 松岡志穂)

さわやかな秋晴れの下、0〜2歳児23人が参加。玉入れ、かけっこ、綱引きなどの競技に挑み元気いっぱい体を動かしました。また、お友だちが参加しているときは「がんばれー」と力いっぱい応援し、オリンピックに負けないうらい盛り上がりしました。その模様を動画で撮影し、保護者が閲覧できるようにしました。動画を観た人からは「一生懸命がんばる姿が見られて感無量です」「自分の子どもを探しながら楽しく観させてもらいました」など、喜びの声が寄せられました。
(特養長和園 済生記者 布施優子)

〈大分〉日田病院
緩和ケアへの理解を深める

世界ホスピス緩和ケアデー(10月の第2土曜日)にちなんで、10月7日から10日まで、1階総合受付前にウィッシュツリー記載コーナーを設置し、緩和ケアの紹介や関連アンケートを実施しました。
1980年代から専門棟



を中心に緩和ケアが広がっており、今では緩和ケアチーム、在宅緩和ケアなど、さまざまな形でケアが提供されるように。日本ホスピス緩和ケア協会は世界ホスピス緩和ケアデーを最終日にした1週間を「ホスピス緩和ケア週間」(今年で19回目)と定め、イベント開催などを通じて普及啓発をしています。当院での関連イベント開催は初めてでしたが、4日間で317人の方がアンケートに参加。患者さんなど多くの方に緩和ケアへの理解を深めていただくことができました。
(医事課 井上美由紀)

topics



資格取得を促した看護部長、また取得後に「知識を自分だけのものにせず、他の職員に伝えていかなければならない」と助言した副看護部長など、周りの後押しも大きかったそうです。今では看護部長に対し施設基準を知ってもらうための勉強会を実施し、個別の支援も行なっています。これらの活動が今回の受賞につながりました。本人も「資格を取得したことで自信が持てた」と話してくれました。
(済生記者 足利麻里子)



10月は里親月間 マリアちゃんも来て啓発活動

〈静岡〉川奈臨海学園

毎月の相談会とは趣向を変え、パネル展示や啓発品の配布など

10月15日、地域の皆さんに里親制度に関心を持っていただくために、市内ショッピングセンターで「里親相談会」を開催しました。10月は里親月間というこ

も実施。開催場所もいつもより目立つセンターコートで、啓発品を手渡しながら老若男女問わず多くの人に里親制度について説明することができました。道の駅伊東マリントウンのイメージ駅長「マリアちゃん」も出張という形で特別参加。集まった子どもたちと記念撮影をしたり握手をしたり、啓発活動の大きな力となりました。
(済生記者 鈴木一丈)

内容充実の健康フェスタ

〈和歌山〉有田病院

10月6日、第19回済生会有田医療福祉センター健康フェスタを当院で開催し、216人が来場しました。

今回は、各種相談（医師・薬剤師・認定看護師など）、検査（眼底カメラ・動脈硬化など）、身体測定（血糖・血圧など）、体験（AED・顕微鏡体験・放射線科見学）、アロママッサージ、キッズコーナーを実施。また、当センターの伊藤秀一総長の特別講演「生命（いのち）輝く生活習慣術」をはじめ、瀧藤克也院長と三谷剛洋士言語聴覚士・リハビリ科係長の講演が



ありました。そのほか、フラメンコの演奏や地元出身芸人のお笑いライブなどもあり盛りだくさん。参加者からは「毎年参加しています。来年も病院で開催してほしい」などの声をいただきました。
(済生記者 大向伸正)



〈滋賀〉守山市民病院 病院、健康にふれる 健康フェスタに200人

10月6日、「ふれあい健康フェスタ」を当院で開催しました。血糖値や骨密度などの測定コーナー、超音波検査やAED操作などの体験コーナー、ユニホームの試着や工作、手術室見学など18の企画を準備。病院をあげてのイベントは6年ぶりでしたが、開場前から列ができて子どもからお年寄りまで来場者は200人を超えました。



各コーナーに参加するとシールがもらえる「シールラリー」を同時開催。最後に防災手ぬぐいやお菓子などの景品と交換で

きるようにしました。来場者はたくさんの方を回って体験を楽しみ、「健康への意識向上につながった」「スタッフが丁寧に対応してくれてよかった」「普段できない体験ができた」と大好評でした。
(済生記者 中嶋元香)

〈鹿児島〉川内病院

ダヴィンチと井手迫先生が テレビ番組に出演

当院泌尿器科・小児泌尿器科の井手迫俊彦部長がダヴィンチ（手術支援ロボット）を用いた手術療法についてインタビューに答える様子が、9月29日、地元テレビ局（MBC）南日本放送の特別番組内で紹介されました。

同番組はメデイポリス国際陽子線治療センター（指宿市）が企画し、最新のがん治療法の知識を正しく身につけ早期発見・早期治療を心がけてもらうという趣旨で制作されました。番組内では井手迫部長が実際にダヴィンチを操作しながら取材を受ける一幕も。放送終了後、早速「鹿児島市内在住だけど、前立腺がんの治療をぜひ井手迫



先生にお願いしたい」という電話問い合わせをいただきました。
(済生記者 石原小百合)

広島病院

一つの疑問から資格取得へ 院内活動が評価され受賞

看護部長室・事務主任心得の武田麻見さんが、8月21日、日本施設基準管理士協会が主催する「第2回施設基準管理士AWARD」で最優秀賞を受賞しました。「この書類は何のために作成しているのか」という一つの疑問から勉強を始め、施設基準管理士の資格を取得した武田さん。



全国済生会事務(部)長会 コストマネジメント部会 目標数値を前倒しで達成 意識高く次の目標へ

10月11・12日、熊本病院で購買担当者研修会を開催し、全国から39人が参加しました。はじめに部会リーダーの千田茂樹・岡山済生会総合病院事務部長が、第3期中期事業計画のKPIである「医療材料ペーパーマークC・D判定割合20%以下」を4年前倒しで達成したことを報告し、さらに5%減を目標とすることを発表しました。その後、(北海道)小樽病院、福岡総合病院、熊本病院が事例発表を行いました。2日目はグループワークで、

一人前の購買担当者に成長するための行動目標を設定。必要な能力や課題を洗い出し、それを解決する方法や進捗管理の仕方を話し合いました。終了後のアンケートでは「事例報告で理解が深まった」「横のつながりを作れた」など前向きな意見が続出しました。

(岡山済生会総合病院) 資材課長 田尾伸幸

〈山形〉特養愛日荘

ふれあいバスの再開で ご近所さんとの会話も弾む

コロナ禍により令和2年2月を最後に中止していたふれあいバスの運行による買い物支援を、10月に再開しました。



かねてより地域住民の再開への熱意が高く、昨年度末から地域の福祉推進員や社会福祉協議会等と協議を重ね、再開の運びとなりました。

現在は毎週水曜日の午前中、当荘が所在する東沢地区の高齢者等を対象に、山形市内のスーパーへの送迎を担当職員が担当。

登録者は34人で、各回の定員は5人で運行していますが、今後は回数増も検討しています。久しぶりの運行に、利用者さんからは多くの感謝の言葉が。買い物中や車内での利用者(ご近所)さん同士の会話も弾み、改めて人と触れ合うこと、外出することの重要性を感じました。

(管理課長 松尾雄三)



載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介いたします

マイスターが教える 心電図完全攻略本

福岡総合病院
循環器内科 萬納寺部長
当院循環器内科の萬納寺洋士部長が執筆した「心電図完全攻略マニュアル」マイスターが教える1・2級

合格への最強メソッド(羊土社)が10月15日に発売された。

日本不整脈心電学会が開催する心電図検定1・2級対策として、出題傾向から問題を3分類したパターン解法で、解きながら必須知識と正解を導く考え方が身につく、判読力



アップが目指せる攻略本となっている。

「心電図検定試験対策を銘打っている。

ですが、心電図を前にした際に必要な臨床的感覚を身につけることを目標としています」とのこと。心電図検定受験を考えている方はもちろん、日常的に心電図を目にする立場にある方にぜひ手にとっていただきたい一冊。

(福岡総合病院 済生記者 富永朋実)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、こ報告ください

今年二度目の新旧交替!

9月6日、病院に新しい働き者が入ってきました。その名も「シエンタ」。公用車です。18年間頑張ってくれたカラフルファイラーが引退のときを迎えたため、新たに納車しました。

実は、新旧交替は公用車だけではなくありません。今年4月には院長が交替となりました。ということで、今年二度目の新旧交替! 公用車入れ替えを記念に、現院長、前院長とともに記念撮影を行いました。



ありがとう、カラフルファイラー。こんにちは、シエンタ。これから病院のためにしっかり働いてもらいます!! (福岡・飯塚嘉穂病院 経営企画室 春口勇介)

★18年も……。それほど長く大切に運転してきたスタッフもすばらしいですね。 (本部広報課 河内淳史)

笑顔をのせて安全運転

〈新潟〉特養康和園では、入居者の皆さんの通院や外出の際に、福祉車両を利用していただきます。

先日、入居者さんの通院の帰り道に海沿いの道走っていると、ふと「久しぶりに海を見た」とつぶやきが聞こえ、表情が明るくなっているのが分かりました。送迎がただの移動手段ではなく、日常の中で心を和ませるひとときにもなると感じた瞬間でした。

私たち職員は、安全を最優先にしながらも、少しでも入居者さんにリフレッシュしていただけるよう、心を込めて送迎をしています。今日もまた、入居者さんの笑顔とともに、安全運転で車両を走らせています。



この取り組みが、全国の病院や福祉施設で働く皆さんにとっても心を温めるきっかけとなれば幸いです。

(新潟・特養康和園 済生記者 山田裕樹)

★安全運転だからこそ、車窓からの眺めを楽しめますよね。久々に見る海に何を思ったのか、気になります。(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

今治出張の楽しみ方

7月下旬、(愛媛)今治病院のボランティア活動の取り組みを伺うため、本部広報課の河内淳史さんたちと愛媛県今治市へ出張に行きました。出張の楽しみといえば、ご当地グルメ。タオルの地場生産で盛んな今



治市ですが、実は焼き鳥の激戦区! 夕飯はもちろん「今治焼鳥」です。とり皮を串に刺さず鉄の重しでプレスし調理する今治焼鳥は、火の通りが早く提供時間が短いため、今治人のせっかちな気質から考案された



といわれています。ほかにも今治城と藤堂高虎像、バリエーションの記念撮影、さらに翌日には松山病院にも訪問(嗚呼、文字

制限のため書ききれない……。出張では、普段会えない済生会病院の方々とお会いでき、その地域を身で体感できることが本当にうれしいです。

(埼玉・川口総合病院)

済生記者 原 衣里奈

★取材に同行。今治病院では「せっかち」とは感じなかったけど……。

(本部広報課 大嶋 薫)

大人気！ 昭和レトロコーナー

廃棄しようと廊下に置いていた足踏みミシン。利用者さんや面会に来たご家族から「こりゃ懐かしい」「昔は皆これじゃったのう」と、昔を懐かしむ声が多く聞かれました。そこで廃棄は一旦中止。「昭和レトロコーナー」を設け、利用者さんたちにしばらく懐かしんでもらうことにしました。

これを聞いた運転手の平川由紀夫さんから「よかったらうちにあるか



き氷機やホットカーラーも使ってください」との申し出があり、レトロコーナーがより充実したものに。利用者さんも大喜びです。ちょっと違います、捨てる神あれば拾う神あり、ですね(笑)。

その隣に置いてあるレトロな時計は、いつか動くようになればよいなと願っています。夜中に時報が鳴るのはとちよつと不気味ですが……。

(広島・老健はまな荘)

済生記者 佐藤 聡

★見る人によって懐かしい人もいれば、新鮮な人もいることでしょう。どれも今は電動になり便利ですが、昭和レトロの良さもありますよね。

(本部広報課 杉山 菜央)



メリットが生かされた！ 花火観賞会

「鴻巣病院で働いているメリットを感じよう！」——門野淳子副院長の一言で、当院を含む鴻巣医療福祉センター職員のイベントとしてこのす花火大会の鑑賞会をすることにしました。当院からこのす花火大会の会場までの間には隔てるものが何もなく、鑑賞するにはもってこいの立地なのです。

開催日の10月5日、前日から降り続ける雨もなんとか止み、前半はドローンショーも花火もとても良く見えました。しかし煙が流れていかず、後半は音で花火を楽しむ会に……。そんな中、サプライズで発起人の門野副院長手作りのケーキがふるまわれ



れるなど、参加者24人のとても和やかな会となりました。

第2回目開催のため、さっそく次回に向けての話し合いをする予定です。

(埼玉・鴻巣病院 総務課 中島 涼子)



★最高のロケーションと手作りケーキ！来年、取材と称してお邪魔しようかしら。

(本部広報課 河内 淳史)

フランスパンにワクワク

9月21日、市内のベーカリーカフェ「MASAKI&TOSHAKI」から、フランスパン17本と菓子パン30個をいただきました。コメ不足が叫ばれる中、「パンを食べて毎日元気に笑って過ごしてほしい！」との思いで寄付を申し出てくださいました。

受け取りに行った子どもたちは、同カフェ鎌田店の山本善隆さんと宇

佐美店の西高暖菜さんからフランスパンを手渡され、菓子パンはその場で食べたいものを選ばせてもらいました。

が開かれました。さわやかな秋晴れの下、子どもたち13人はウィッチ(魔女)やミツパチの姿で病院の周りをパレード。お菓子をもらって大喜びです。いたずらされずに済んだ先生や、見守るお父さんやお母さん、患者さんたちも「めんこいね」と目を細めていました。保育所に戻った子どもたちは、最後にお菓子の袋詰めをもらいました。

普段あまり食べる機会のないフランスパン。子どもたちは触って硬さを確かめたり、「良い香り！」と匂いを嗅いだり、興味津々。初めて食べる子は「硬いけれどサクザクしておいしい」と笑顔になりました。

(静岡・川奈臨海学園)

済生記者 鈴木 一大

コロナ前にやっていた病棟での行進再開は今年も実現せず。それでも天候に恵まれ、2年ぶりに園外パレードができました。入院患者さんや職員たちが笑顔になるハロウィンも、早く戻ってきてほしいですね。

(北海道・小樽病院)

済生記者 定 淳志



めんこいハロウィン行進

10月18日、(北海道)小樽病院の院内保育所なでしこキッズクラブで、一足早いハロウィンイベント



★「知らないうちに蜂になっちゃっ

次号予告

済生 No.1146 [令和6年12月号]

済生会の不易流行論 (195) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 知念里奈

口福にっぽん (87)

てづくりおもちゃ いまいみさ

た」と先生たちに連れられる姿、たまりません。こりゃあめんこい。

(メディアカル・リーフ 富谷 咲希)

SNSチーム発足から1年

(福岡)大牟田病院のSNSチームが発足し、早1年。限られた時間集まり、規約作成や計画立案



胡蝶蘭が咲きました



などに苦労した記憶もありますが、SNS(インスタグラム)を通じて当院をもっと知っていただくこと、日々情報発信に努めてきました。その甲斐あってか多くの反響があり、当院の取り組みや心温まるエピソードが広く伝わっていることを実感しています。また、温かい応援やコメントに支えられながら、このア



電動ベッドの導入で 快適な療養環境を

社会福祉法人 香川県済生会支部
香川県済生会病院
KAGAWA SAISEIKAI HOSPITAL

目標金額 **1,000**万円 2024年 **10月1日** (火) から **12月20日** (金) まで

香川県済生会病院が寄付金控除型クラウドファンディング挑戦中！

患者様と職員の安心・快適な療養環境を！ 電動ベッドの導入にご寄付を！

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

香川県済生会病院は、地域の急性期医療を担う中核病院として発展してきました。地域医療への貢献に加え、済生丸による離島・僻地健診や無料低額診療などの社会福祉活動も行っています。

高齢化が進む中、さまざまな疾患を抱える高齢患者さんを中心とした病診・病病連携、在宅施設や介護施設との連携がこれまで以上に必要で、当院はその役割を果たすべく取り組んでいます。当院には一般病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟がありますが、多様性と高齢化に対応するための療養環境の整備は喫緊の課題で、中でも電動ベッドの導入は最も重要です。

現在、198床のうち73床が電動ベッドですが、患者さまからの増設要望も年々増加しています。電動ベッドは患者さまの快適な入院生活を支え、職員の負担を軽減するためには不可欠です。本来であれば自己資金で賄っていくべきですが、病院としての最優先課題である「医療提供の継続」のため、医療設備の更新を優先して行っております。今後も医療機器の更新時期が迫っていることから、自己資金のみで対応することが難しいため、この度クラウドファンディングでご寄付を募らせていただく運びとなりました。

ベッド一つとっても、入院生活や介助する方々の生活が大きく変わります。香川県済生会病院にいる間は、一人でも多くの方々に、無理することのない生活を送ってほしい。そう願い、今回のクラウドファンディングに想いをかけております。電動ベッドの導入を通して、地域の皆さまに安全な療養環境と、よりよい医療サービスの提供を目指します。

皆さまからのあたたかいご寄付のほど、何卒よろしくお願いいたします。



香川県済生会病院 レディーフォー



お問合せは、香川県済生会病院まで直接ご連絡ください。

EMAIL : saiseikaikagawa@mf.pikara.ne.jp TEL : 087-868-1551

<https://readyfor.jp/projects/saiseikai-kagawa>



カウントとともに私たち SNS チームも成長してきたと感じています。写真は、この1年間の投稿の中でも「いいね！」が多かったもの。今後はさらに活動の幅を広げ、「愛される病院」「選ばれる病院」を目指します!!

(福岡・大牟田病院 看護部 外来主任看護師 古賀寛子)

★病院給食のお楽しみメニューやイベント情報、職員のほっこり投稿などたくさんありますので、ぜひご覧ください！(本部広報課 杉山菜央)

我が家のウーパーパー
昨年7月、ベットショップで5センチほどの子どものウーパーパーを見つけました。とても小さくかわいい子で、元々アカアリウムが趣味だった夫と相談し、飼うことを決めました。

ウーパーパーを飼うのは初めてなので「最初の水合わせが重要！」と思い(ウーパーパーは非常に丈夫な生き物らしい……)、1時間ほどかけてゆっくりと水槽の中へ。名前は「かまたり」。なんとなく頭に浮かんだ文字を、そのまま名前にしました(笑)。

我が家に来てから1年と2カ月。今では20センチくらいまで大きくなり、毎日癒やされています。ウーパー

アンケートにご協力ください
機関誌「済生」をご覧いただきありがとうございます。本誌に対する満足度やニーズを把握するため読者アンケートを実施しています。二次元バーコードからご回答をよろしくお願します。皆さまからの意見を参考に「済生」を編集してまいります。(編集部一同)



ルーパーの寿命は5〜8年だそうです。なるべく長生きしてほしいのです。

(岡山吉備病院 入退院支援センター 看護師 神崎英美)

★「ほっこり顔が何ともかわいい!」水質管理など大変だと思いますが、元気に長生きしてほしいですね!
(メディアカル・リーフ 岩谷純一)



明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣 桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施業救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日 香川県済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施業救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 香川県済生会となっている。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 83 支部 40 道府県
療養所 20
診療所 2
介護医療院 28
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 119
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 66
地域包括支援センター 31
その他 9
合計 405 (数字は令和5年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。

職員数は全国で約6万6000人。

済生 [令和6年11月号]
THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.
令和6年11月10日発行
通巻第1145号(第100巻第11号)
編集兼発行人 炭谷 茂
発行所 社会福祉法人 香川県済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL : 03-3454-3311 (代)
FAX : 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1
© 社会福祉法人 香川県済生会

障がい者の方に働く場所をこの先も
クリーニング工場の新たな挑戦!

本会
福祉施設で
初の挑戦!



社会福祉法人 済生会
済生会熊本福祉センター

目標金額 **500万円** 2024年 **10月1日(火)** から2024年 **12月20日(金)** まで

済生会熊本福祉センターが寄付金控除型クラウドファンディングに挑戦!

障がい者の方に働く場所をこの先も クリーニング工場の新たな挑戦!

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

障がい者の方に、働く場所を提供し続けたい!

済生会熊本福祉センターは、障害福祉サービス事業、福祉相談支援事業、地域生活定着促進事業など8つの事業を運営しています。「一人ひとりを尊重し、共に生きる社会の実現をめざします」を理念に掲げ、子どもから大人まで、一人ひとりのライフステージに沿った支援を行っています。

そのうちの一つの事業所である「済生会ウイズ」は、障がい者の方の就労支援を行う多機能型事業所です。医療機関を対象としたクリーニング事業を営み、患者様が使用したシーツや病衣、医療従事者の白衣などを丁寧に洗濯し、真っ白な状態で届けることで、ともに地域医療に貢献しています。

しかし、当施設は開設から約20年が経ち、設備の老朽化が進んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響により、クリーニングの受注量は年々増加傾向にあります。現在は、利用者様を含むスタッフが手作業でリカバリーしている状況です。このままでは、老朽化により低下した生産性や品質面の維持は困難な見通しです。

質の高い支援やサービスが提供できない障害者支援事業所では、今後淘汰がさらに進む可能性があります。そこで、利用者様の働く場を確保し続けるため、また、年齢を重ねても大好きな職場で働き続けることができるよう、プロジェクトを立ち上げました。

今回皆様からいただくご寄付は工場内の設備更新に充てさせていただき、利用者の方々の働く環境をより良くしたいと考えております。ご賛同いただける皆様からのご寄付をどうぞお願いいたします。

READY FOR

済生会熊本福祉センター レディーフォー



お問合せは、済生会熊本福祉センター担当者まで直接ご連絡ください。

EMAIL : uchida-t@sk-fukushi.jp TEL : 096-223-3330

<https://readyfor.jp/projects/bridge-to-with>